

# **（仮称）盆栽アカデミー基本構想及び基本計画**

**平成27年5月**

**さいたま市 スポーツ文化局 文化部**

**大宮盆栽美術館**

# 目次

<b>(仮称) 盆栽アカデミー基本構想及び基本計画の概要</b>	
1. (仮称) 盆栽アカデミー基本構想及び基本計画の趣旨	1
2. (仮称) 盆栽アカデミー基本構想及び基本計画策定業務の概要	1
3. (仮称) 盆栽アカデミー基本構想及び基本計画策定業務の推進体制	2
<b>I (仮称) 盆栽アカデミーの位置づけ及び大宮盆栽の現状と課題</b>	
I-1 さいたま市における(仮称)盆栽アカデミーの位置づけ	4
I-2 大宮盆栽をめぐる現状と課題	6
<b>II (仮称) 盆栽アカデミーの方向性</b>	
II-1 (仮称) 盆栽アカデミー設置の目的と意義	12
II-2 (仮称) 盆栽アカデミーの役割	14
II-3 (仮称) 盆栽アカデミーの方向性	16
<b>III (仮称) 盆栽アカデミーの基盤構築</b>	
III-1 (仮称) 盆栽アカデミーの需要予測	17
III-2 コース設定	19
III-3 海外美術館・植物園との連携	22
III-4 段階的な基盤の構築と講座の設定手順	23
<b>IV (仮称) 盆栽アカデミーのカリキュラム基本方針</b>	
IV-1 カリキュラムの考え方	24
IV-2 段階的なカリキュラムの充実化	27
IV-3 上級コースのカリキュラム構築と盆栽園との連携	31
IV-4 (仮称) 盆栽アカデミーの講師とテキスト	32
IV-5 関連分野の研究を行っている教育機関(大学等)との連携	35
<b>V (仮称) 盆栽アカデミーに係る施設整備の基本方針</b>	
V-1 大宮盆栽美術館周辺の既存施設の利用	37
V-2 公共用地利用の基本方向	40
V-3 3公共用地の条件整理	42
V-4 3公共用地の土地利用・整備に係る法規制等	44
V-5 3公共用地のゾーニング及びイメージパース	47
<b>VI 今後の課題</b>	
VI-1 管理運営体制	56
VI-2 在日外国人のニーズの把握	58
VI-3 盆栽村全体を見据えた整備構想	59
参考資料1 全体概要	63
参考資料2 海外アンケート結果	64
参考資料3 平成25年度「(仮称)国際大宮盆栽アカデミー設置に向けた 基礎調査報告書」概要	75

## ◆（仮称）盆栽アカデミー基本構想及び基本計画の概要

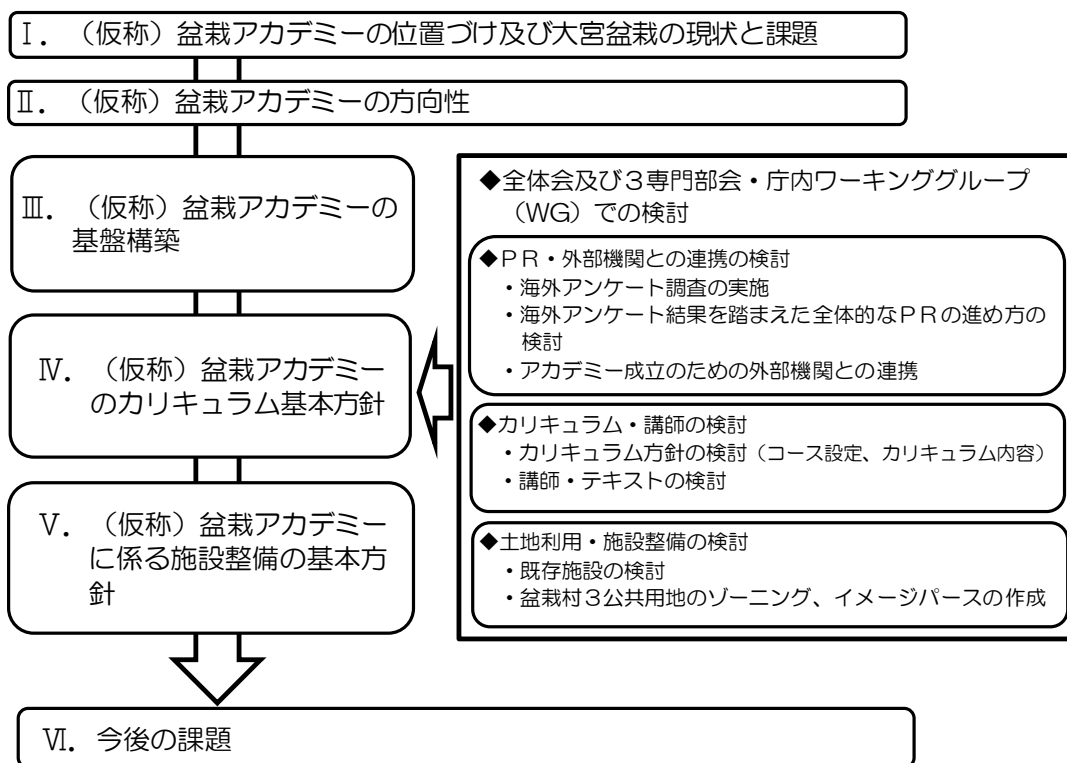
### 1.（仮称）盆栽アカデミー基本構想及び基本計画の趣旨

平成 25 年度に行った「（仮称）国際大宮盆栽アカデミー設置に向けた基礎調査」に示す考え方に基づき、本市の特色である「大宮盆栽」の世界的なステータスをさらに高める新たな組織として（仮称）盆栽アカデミーを整備するにあたり、その基本的な考え方を定め、今後、講ずべき諸施策の方針を体系的に取りまとめた基本構想・計画を策定する。

### 2.（仮称）盆栽アカデミー基本構想及び基本計画策定業務の概要

- ・平成 26 年度は、基礎調査の結果を受けて、より詳細な検討を行う基本構想・基本計画の策定を実施した。
- ・基本構想・基本計画の策定は、内容の検討決定を行う「全体会」と作業を担当する「分科会」を組織した。また、土地利用・施設整備等については、より現場に則した部署へ調査を行い、具体的な検討を行った。

### ◆基本構想・基本計画の策定フロー



### 3. (仮称) 盆栽アカデミー基本構想及び基本計画策定業務の推進体制

- ・より詳細な検討を行うため、「カリキュラム部会」、「土地利用・施設部会」、「PR・連携部会」の3部会を組織して進めた。
- ・また、盆栽村周辺整備については、平成25年度に組織した「盆栽文化ワーキンググループ」を中心に具体的な検討を行った。

#### 1. 基本構想・計画について

(1) 策定会議メンバー (アイウエオ順 敬称略 所属は平成26年9月現在)

##### 全体会メンバー

	氏名	所属	備考
座長	老川慶喜	立教大学経済学部教授	大宮盆栽美術館 運営委員会委員長
	小笠原左衛門尉亮軒	名古屋園芸(株)	
	久世晴雅	大宮東口地域コーディネーター	
	小林國雄	日本水石協会理事長	
	中津原努	都市づくりNPOさいたま副理事長	
	浜野博美	日本盆栽協会専務理事、大宮盆栽協同組合代表理事	
	村上和夫	立教大学観光学部教授	
	山中 融	埼玉県産業労働部長	大宮盆栽美術館 運営委員会副委員長

##### 分科会メンバー

#### ①カリキュラム部会

	氏名	所属	備考
リーダー	菅建彦	大宮盆栽美術館館長	
	秋山伸一	豊島区立郷土資料館学芸員	
	荒川正明	学習院大学文学部教授	
	太田晴彦	彩の国さいたま人づくり広域連合 事務局政策管理部 部長	
	河田捷一	大宮観光ガイド协会会长	
	寺岡徹	東京農工大教授	
	村田行雄	九霞園 三代目	
	山田香織	清香園 五代目・彩花盆栽教室主宰	

#### ②土地利用・施設部会

	氏名	所属	備考
リーダー	中津原努	都市づくりNPOさいたま副理事長	
	竹山浩	日本盆栽協会顧問	
	山田登美男	大宮盆栽美術館盆栽管理官	

#### ③PR・連携部会

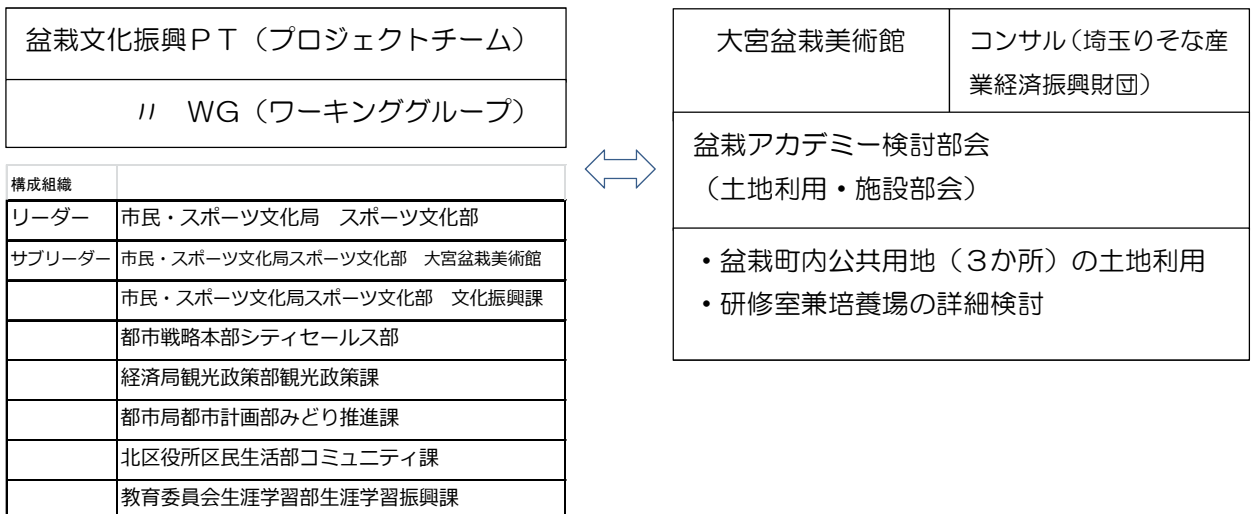
	氏名	所属	備考
リーダー	村上和夫	立教大学観光学部教授	
	今成貞昭	埼玉県産業労働部観光課長	
	利根川恵子	ワイズメンズクラブ国際協会東日本区関東東部部長	
	小林正太郎	(株)JTB関東 法人営業埼玉支店 交流文化事業チームマネージャー	

(2) 基本構想・基本計画の検討内容

全体会（全体調整） （アカデミー全体運営方法、組織等全体調整）		
分科会		
カリキュラム部会	土地利用・施設部会	PR・連携部会
<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラム方針の検討 （コース設定、カリキュラム内容）</li> <li>講師・テキストの検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存施設の検討</li> <li>盆栽村3公共用地のゾーニング、イメージパースの作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外アンケート調査の実施</li> <li>海外アンケート結果を踏まえた全体的なPRの進め方の検討</li> <li>アカデミー成立のための外部機関との連携</li> </ul>

2. 盆栽村周辺整備の検討

(1) 市PT（プロジェクトチーム）・WG（ワーキンググループ）との連携体制



(2) 市PT（プロジェクトチーム）・WG（ワーキンググループ）の検討内容


市内
プロジェクトチーム（PT）
ワーキンググループ（WG）
（検討事項：盆栽村周辺整備）
市有地の活用と整備方針
既存周辺施設の検討

## I (仮称) 盆栽アカデミーの位置づけ及び大宮盆栽の現状と課題

### I-1. さいたま市における(仮称)盆栽アカデミーの位置づけ

#### 1. しあわせ倍増プラン2013(平成25年12月)

- ・「7. 文化・芸術 38-1 盆栽文化の振興」の(2)各年度の目標と取組内容において以下のように記載されている。

平成28年度	年間来館者目標数70,000人 (平成24年度比40%増)	取組内容	①平成27年度までの実績を内部評価し、展示、講座等を開催 ②(仮称)盆栽アカデミーの実施 ③世界盆栽大会の開催準備への支援
		工程	①②③ 

#### 2. さいたま市文化芸術都市創造計画(平成26年3月)

- ・「施策5 地域に根ざした文化芸術に関する資源の発掘・保護・活用」の「5-1 盆栽文化の振興 大宮盆栽美術館を拠点とした盆栽文化の振興」において、以下のように記載されている。

##### ○大宮盆栽美術館を拠点とした盆栽文化の振興

- ・大宮盆栽美術館は、盆栽文化の拠点施設として、世界に誇る大宮の盆栽文化を広く発信するとともに、地域との連携を図りながら、資料収集、調査研究、教育普及など盆栽文化の振興につながる各種事業を行います。また、周辺の文化施設との連携や未利用地の活用などを検討し、大宮盆栽美術館を拠点としたまちづくりを推進します。

<取組例>

##### ・(仮称)盆栽アカデミーの実施

- ・大宮盆栽美術館における資料等の通常展示や企画展等の実施

#### 3. さいたま市総合振興計画後期基本計画実施計画(平成26年4月)

- ・第3章第4節、第5章第2節、第7章第3節の「盆栽文化振興事業」の項目において以下のように記載されている。

##### 盆栽文化振興事業

本誌の特色ある盆栽文化を広く国内外へ発信し、文化振興を図るため、大宮盆栽美術館において、(仮称)盆栽アカデミーの開講、各種普及事業の展開並びに所蔵盆栽の育成・管理に取り組みます。

#### 4. さいたま市成長戦略（平成 26 年 4 月）

- ・国際観光都市戦略「さいたまMICE」の「8. 大宮盆栽美術館の運営」において以下のように記載されている。

##### 【取組概要】

①開館以来、盆栽の歴史や意義を多様な観点から研究して、分かりやすく公開し、講座・講演会などの普及活動を展開している。併せて、ギャラリー及び庭園に常時貴重盆栽を展示し、盆栽の素晴らしさに気軽に触れられる観光を兼ねた美術館を目指す。地域と協働して、大宮盆栽協同組合や様々な盆栽団体、盆栽作家と共催して企画展を開催し伝統産業の活性化を図るとともに、新たな取組として、**（仮称）盆栽アカデミーの実施**を始めとする各種施策の推進による来館者増を図る。

#### 5. その他の計画における位置づけ

- ・上記の計画の他、さいたま市盆栽公苑構想基本計画（平成 15 年 3 月）や大宮盆栽美術館振興アクションプラン（平成 23 年 3 月）に、盆栽文化や技術の継承・普及のための学習研修機能の必要性や、アカデミーを中心とした、盆栽村と連携したまちづくりや盆栽文化の普及についての記載がある。

##### ●さいたま市盆栽公苑構想基本計画（平成 15 年 3 月）

- ・盆栽の文化、技術の継承及び普及のための学習研修機能

##### ●大宮盆栽美術館振興アクションプラン（平成 23 年 3 月）

##### 【さいたま市大宮盆栽美術館アクションプラン評価業務報告書（平成 25 年 3 月）】

- ・検討に着手した“（仮称）国際盆栽アカデミー”を中心に、「盆栽村と連携したまちづくり」や「盆栽文化の普及」に取り組み（中略）世界に向けたさいたま市大宮盆栽美術館として、存在価値をいっそう向上していくことが望まれる。

## I-2 大宮盆栽をめぐる現状と課題

- ・大宮盆栽をめぐる現状と課題としては、平成 25 年度の基礎調査において、盆栽園主や有識者に、現在の盆栽事情についてのヒアリング調査を実施した。
- ・その結果、「産業としての発展と後継者育成が難しい環境である事」、「国内では、若い世代の興味の高まりによる新たな愛好者増加の見込みがある事」や「海外では、盆栽ブームによって、愛好家の数は日本を上回っている事」が見えてきた。

### 1. 大宮盆栽村の現状

#### (1) 産業としての活力の低下、日本人の価値観の変化（日常と盆栽との関係が疎遠）

- ・園主の高齢化、地価高騰、後継者難による盆栽園の維持が困難な環境、さらに、日本人のライフスタイルの変化（庭の減少、床の間の減少など盆栽と触れ合う環境の減少）による国内愛好家の減少などから産業としての活力が低下するなど、厳しい状況となっており、結果としてかつて 20 園以上あった盆栽園が現在では 6 園（さいたま市北区盆栽町に居住する盆栽園数）に減少している。

#### (2) 国内での若い世代の興味の高まり

- ・一方、若い世代には、園芸・ガーデニングの一種として、従来とは異なる観点で盆栽を捉える動向が生まれている。そうした中、大宮盆栽村では若い世代に人気の小品盆栽の販売や、草花の寄せ植えを中心とした盆栽作りの教室等が開催されており、若い世代の興味の高まりによる新たな愛好者の増加が期待できる。
- ・盆栽愛好家の高齢化により、親が残した盆栽を継承するための維持・管理手法を求める声が増加するなど、新たなニーズが発生している。

#### (3) 海外での盆栽ブーム（盆栽愛好者の数は日本を上回る）

- ・大宮盆栽は、1970 年の大阪万博での日本庭園における盆栽展示で世界に知られるようになった。現在では、世界一の盆栽ブランドとして認知され、海外で広まりつつある。
- ・平成 26 年度は、平成 27 年 3 月 14 日～22 日の間、フランス・パリにて期間限定の大宮盆栽のアンテナショップが展開され、盆栽展示のほか、園主による剪定デモンストレーションが行われ、国内外で注目された。
- ・2017 年には「第 8 回世界盆栽大会」がさいたま市で開催される。1989 年の第 1 回大会（当時は大宮市）に続く本大会では、世界の盆栽愛好家約 1,200 人、一般入場者は約 1 万人が見込まれている。

### 2. 大宮盆栽美術館の取組み

#### (1) 大宮盆栽美術館の方針

- ・大宮盆栽美術館では、盆栽を中心として、盆器、水石、絵画資料、歴史・民俗資料などの紹介により、さいたま市の伝統産業にも指定されている盆栽文化を、広く国内外に発信することを目的に活動している。
- ・平成 22 年の開館以来、「盆栽に関わる研究センター」、「さいたま市の新しい観光



拠点」、「盆栽産業活性化の一助」という3つの方針を立てて活動を行っている。

◆大宮盆栽美術館の方針

①盆栽に関わる研究センター

・盆栽の歴史や文化を、多様な観点から研究してわかりやすく公開し、講座・講演会などの普及事業を開催する。

②さいたま市の新しい観光拠点

・盆栽の素晴らしさに気軽に触れられる、さいたま市の新たな観光拠点を目指す。

③盆栽産業活性化の一助

・多くの方が盆栽に親しむきっかけをつくることで、伝統産業の活性化を図る。

(2) 大宮盆栽美術館の主な事業

・主な事業は、美術館の研究成果発表の場である「展覧会事業」、研究成果活用の場である「普及事業」、国内外への広報という3点になる。

◆大宮盆栽美術館の事業

① 展覧会事業

・常設展示：所蔵盆栽の展示が当美術館の中心になり、季節に合わせ開催。  
・企画展示：調査研究に基づき盆栽文化を体系的に理解してもらうため、様々な視点で開催。

② 普及事業

・盆栽を歴史的視点、美術的視点並びに育成管理的な視点など多様な観点から、講座や講演会などを開催。  
・児童・生徒に対する盆栽学習を実施。

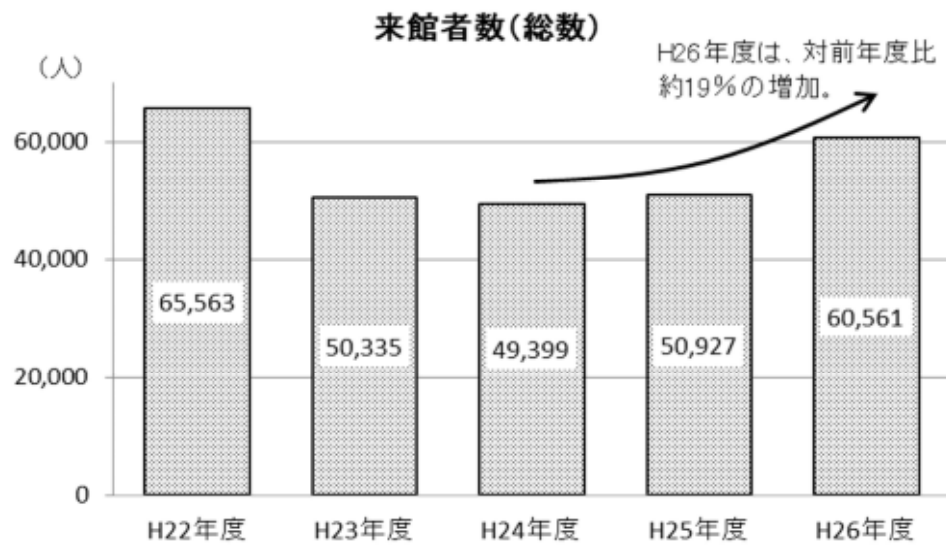
③ 海外広報

・パンフレット等に英語版を作成し、また Web サイトの改善やフェイスブック等のSNSを利用した広報活動を実施。

(3) 大宮盆栽美術館の来館者実績

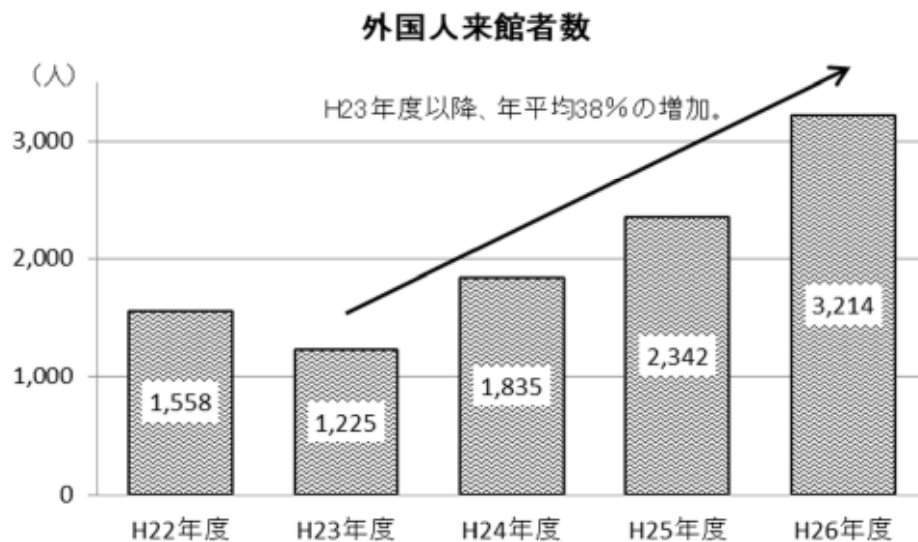
①来館者の推移

- ・平成22年3月の開館以降、大宮盆栽美術館の来館者は、初年度は65,563名、以降の3年間は50,000人前後で推移していたが、平成26年は60,561人、前年度比約19%の増加となった。
- ・増加の背景には、展示、イベント・講座、広報の充実により大宮盆栽美術館の認知度が高まったこと、所有しないまでも興味を持った人が増えてきたと考えられる。
- ・メディアからの注目度が増加し、多くのメディアで取り上げられたことで、大きな広報効果があったと考えられる。



### ②外国人来館者の推移

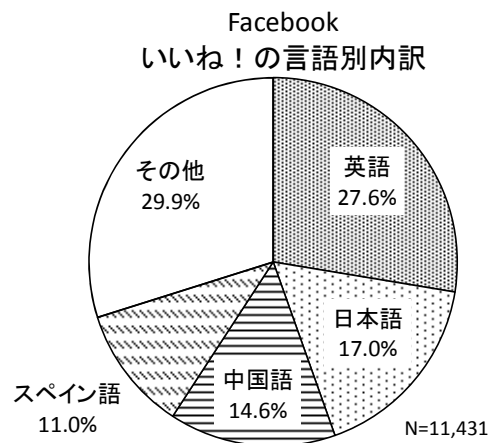
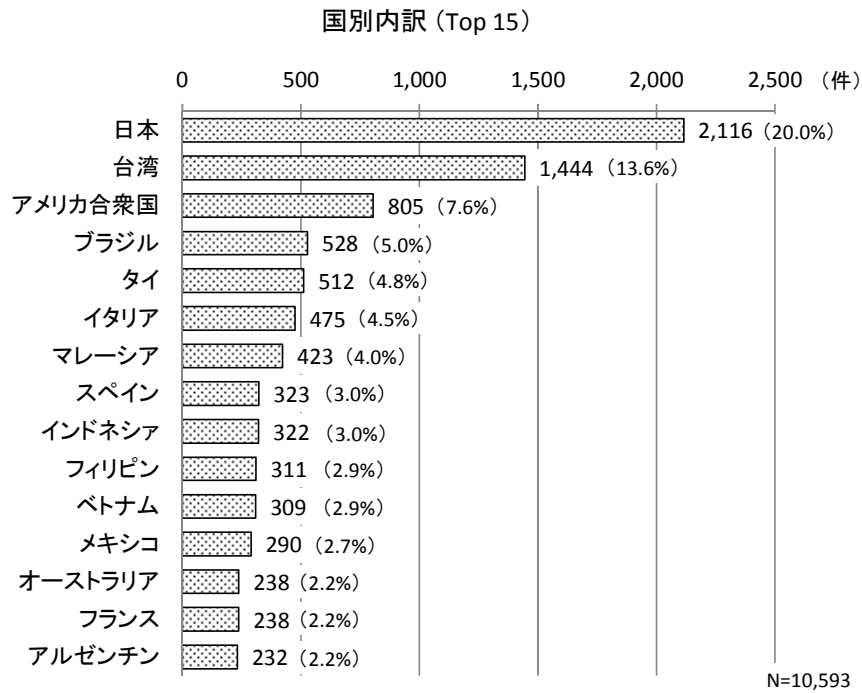
- ・平成 26 年度の大宮盆栽美術館の外国人来館者は、3,214 名で過去最高の数字であった。なお、平成 26 年度の来館者数全体の中の外国人来館者数の比率については、全体の約 5.3%である。
- ・大宮盆栽美術館の外国人来館者数の推移をみると、開館初年度の平成 22 年度は 1,558 名、東日本大震災があった平成 23 年度は 1,225 名に減少したものの、平成 23 年度以降年平均 38%の増加を示している。



### ③大宮盆栽美術館 Facebook の「いいね！」獲得状況

- ・盆栽美術館の Facebook は、開始 1 年強で既に 1 万件以上の「いいね！」を獲得している。

- ・「いいね！」の国別内訳では日本が最も多いが、台湾、米国をはじめ、45 カ国からの幅広い支持を集めている。（中華人民共和国は対象外）
- ・「いいね！」の言語別内訳では英語が 27.6%で最も多く、英語と日本語で 44.6%を占める。  
（中国語は、国別では台湾、香港によるもの）



（データは平成 27 年 4 月 21 日現在）

#### ④盆栽ワークショップ申込・受講状況

- ・大宮盆栽美術館では、盆栽の基本を学びながら手のひらサイズの小さな盆栽を作る、初心者向けの「盆栽ワークショップ」を毎月1回開催している。
- ・平成26年度は、毎月1回、計12回のワークショップを開催した。毎回募集定員を超える応募があり、倍率が多い時で8倍となった（作る盆栽の樹種によって応募状況に変動がある。2月は「桜」で毎年人気がある）。各回通算（年間）申込者数は845人を数え、受講者総数の3.4倍となっている。

#### 平成26年度盆栽ワークショップの申込・受講状況

回	月	申込者数 (a)	受講者数 (b)	参加できなかった人数 (a)-(b)
1	4月	66	20	46
2	5月	68	19	49
3	6月	48	18	30
4	7月	57	20	37
5	8月	30	20	10
6	9月	50	20	30
7	10月	32	22	10
8	11月	56	22	34
9	12月	86	22	64
10	1月	50	22	28
11	2月	175	22	153
12	3月	127	22	105
合計		845	249	596

### 3 大宮盆栽の課題

#### (1) 大宮盆栽村に関する課題

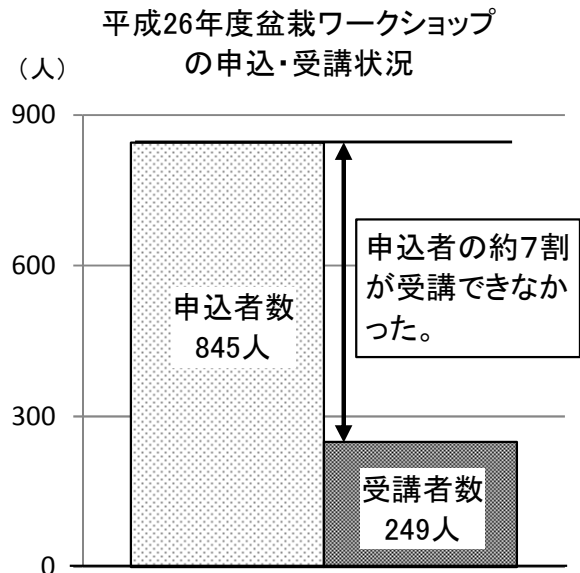
- ・新たな盆栽ファン、若い世代向けの教室等が行われているものの、それらは限定的で大きな潮流になっておらず、愛好家は高齢化・先細りの傾向にある。
- ・親から引継いだ盆栽の維持管理方法を求める声に対しては、盆栽園およびそこに働く職人が減少しているため、必ずしも要望に応えられていない。
- ・若い世代に盆栽への興味が高まりつつあるものの、伝統的な盆栽を見る、盆栽の本質を知る機会が少ない。
- ・海外研修生受け入れの要望は常にあるが、一部の盆栽園で限定的に行っているの

みで大きな潮流になっておらず、要望に応えられていない。

- ・海外では盆栽愛好家の数は日本を上回り、盆栽が持つ文化や精神性への希求があるが、そうした文化面・精神面については現状では教える場がない。

## (2) 大宮盆栽美術館に関する課題

- ・来館者数の増加、盆栽ワークショップの応募状況に示されるように、盆栽に興味関心を持つ人、さらには盆栽を作り育てたいという人が増えているものの、ワークショップを受講できた人（平成26年度249人）は申込者総数の29.4%にとどまっており、申込者の約7割が受講できていない。
- ・申込者の中には、既に受講経験のあるリピーターも多いが、ワークショップの内容は初心者向けに設定しているため、次の段階へとステップアップを希望する声には応えられていない。



## (3) 大宮盆栽の課題の把握

- ・大宮盆栽村をめぐる現状と大宮盆栽美術館の取り組みを踏まえると、

**国内外を問わず盆栽への注目が高まりつつあり、初心者から上級者まで各レベルに応じて盆栽を学ぶことのできる場が求められているものの、そのニーズには対応できていない**

というのが現状である。盆栽に興味関心を持ちはじめた初心者、あるいは盆栽をもっと学びたいという愛好家、これら国内外の様々な人々の要望に応えるための受け皿の整備が課題である。

## Ⅱ. (仮称) 盆栽アカデミーの方向性

### Ⅱ-1 (仮称) 盆栽アカデミー設置の目的と意義

#### 1. (仮称) 盆栽アカデミーの目的

- ・大宮盆栽をめぐる現状等を踏まえて、(仮称) 盆栽アカデミーの目的とも言えるミッション(使命、重要な任務)とビジョンを以下のように定める。

##### ◆(仮称) 盆栽アカデミーのミッション

日本初の盆栽専門の公的な学習・研究機関として、世界中の盆栽愛好家の学びのニーズに応えるとともに、盆栽文化・技術の中心である大宮盆栽を発信源として、盆栽文化の洗練と普及に貢献する。

##### ◆(仮称) 盆栽アカデミーの3つのビジョン

ビジョン1: 盆栽の技術から作法・文化・歴史までを体系的に学べる日本初盆栽専門の公的学習機関として、世界一(世界最高峰)の水準を目指す。

ビジョン2: 各盆栽園の持つ技術・ノウハウ・知識を後世に残すための教本づくりに取り組み、盆栽専門家の育成や愛好家の技術向上といった人材育成活動を通して、盆栽人口の裾野拡大を目指す。

ビジョン3: 盆栽に関する学術的な研究に取り組むとともに、若手研究者の盆栽研究を振興し、その成果を発表できる環境を整備することで、盆栽の学術的な地位の向上を目指す。

#### 2. さいたま市が(仮称) 盆栽アカデミーを設置する意義

- ・さいたま市が(仮称) 盆栽アカデミーを設置する意義を以下のように定める。

①総合性…盆栽文化の振興に向けて、多面的なアプローチを総合的に推進する。

- ・大宮盆栽美術館の文化・研究活動を拡充するとともに、美術館では担えない技術(研修)や普及(体験)機能を新たに付加し、総合的に盆栽文化振興に取り組む。

②公益性…盆栽文化の普及や学術的振興といった公益性の高い役割を担う。

- ・盆栽文化・技術を記録し、それらを学術的見地から整理・検証・研究する機能、国内外の植物園、博物館、大学、農業高校、研究機関等との学術連携、海外への盆栽文化の普及を担う指導者の育成等、大宮盆栽美術館と連携して公益性の高い役割を担う。

③信頼性…対外的に十分な信頼を得ることができる組織である。

- ・海外からの研究者・研修者を募集する上で、運営組織には高い信頼性が求められる。公的機関であることは、対外的な信頼性を高める大きな要素となる。

- ④継続性…組織運営上の諸問題によって事業の継続性が安易に損なわれない。
- 中核業務として、カリキュラム運営を長期に渡って安定継続することは必須条件である。組織運営上の諸問題によって事業の継続性が安易に損なわれない組織でなければならない。
- ⑤普遍性…客観的で偏らない立場から盆栽文化を総合的に捉え、普及に取り組む。
- 各盆栽園に継承される歴史的背景から、盆栽に対する姿勢や解釈には多少の違いも見受けられる。それらを総合的に捉え、偏りのない中立的な立場に立つことが重要である。
- ⑥一体性…大宮盆栽美術館と連携し、一体的な事業運営を行う。
- 文化的側面と技術的側面、学術的振興と一般への普及という対照的で相互補完的な領域から盆栽文化の振興を図るために、大宮盆栽美術館と一体的な事業運営を行う必要がある。
- ⑦非営利性…盆栽園や事業者団体が取り組まない分野を主な活動領域とする。
- 盆栽園や事業者団体の取り組みが手薄であるが、盆栽文化の振興には不可欠な分野を主な活動領域とする。商業主義とは一線を画した取り組みが前提となる。
- ⑧波及性…大宮盆栽村の国際化や市内園芸産業の振興につながる。
- 外国人研究者・研修者の受け入れ、学術研究を背景とした大宮盆栽のステータスアップ、普及活動による愛好家層の拡大は、大宮盆栽村の国際化や市内園芸産業の振興につながる。

## Ⅱ－２ （仮称）盆栽アカデミーの役割

### 1. 日本人への刺激

- ・大宮盆栽美術館では、様々な取り組みを通して徐々にではあるが国内外にその存在感を示し始めている。
- ・しかし、国内においては、盆栽に関する知識や技術を体系的に学べる場の無いことが愛好家減少の一因とも考えられる。また一般の日本人が盆栽とふれあう場・機会の少ないことも課題である。
- ・上記を踏まえると、盆栽アカデミーの役割は、愛好家に対しては「ワークショップや講座を通して、盆栽を体系的に学ぶ機会を提供し新たな刺激を与えること」であり、一般の日本人には「日本の身近な伝統文化として盆栽の良さを伝えること」とまとめられる。

### 2. 大宮盆栽の伝統的な技術・文化の普及・継承

- ・大宮盆栽の特徴は、剪定・針金掛けや培養・管理など、その技術力の高さにある。
- ・また、技術面だけではなく、盆栽の飾り方や鑑賞法、盆栽をめぐる哲学といった「盆栽文化」もあわせ持っている。約90年の歴史を持つ大宮盆栽の伝統的な技術と文化を国内外の人々に広めることも（仮称）盆栽アカデミーの役割である。
- ・こうした大宮盆栽の伝統的な技術・文化を次世代に継承していくことは、園主の高齢化等が進む大宮盆栽村の現状を鑑みれば非常に重要な課題である。（仮称）盆栽アカデミーには、大宮盆栽の技術・文化を体系づけて、次世代に継承する役割がある。

### 3. 外国人に対する（仮称）盆栽アカデミーの役割

#### （1）外国人の需要について～平成25年度基礎調査の結果から

- ・平成25年度の基礎調査において、盆栽園の園主等盆栽関係者のヒアリング及び大宮盆栽美術館の来館者アンケートから、外国人の入門や高度な研修の需要は相当数あると推測された。

#### ①盆栽の世界的な普及

- ・2012年の植木・盆栽類輸出額は2001年の約13倍。対前年伸び率は22.1%である。
- ・海外では盆栽愛好家が爆発的に増加。特に中国が飛躍的に台頭している。中国の盆栽愛好家は推定500万人、世界では1,000万人以上の盆栽愛好家がいると推計される。

#### ②盆栽の高いブランド力

- ・海外の盆栽愛好家にとって、大宮盆栽は盆栽文化・技術の中心地である。
- ・大宮で盆栽を学ぶ意味は、本物を見てまねることが容易にできること。さらに盆栽の種類が多く、大宮で一度に学ぶことができる。
- ・著名な盆栽園や盆栽作家への入門希望が多い。



### ③盆栽村の外国人受け入れ

- ・海外からの短期間の研修希望者が多くなっている。
- ・園主の高齢化等により、弟子や研修生の受け入れ体制が弱まっている。
- ・剪定技術や培養・管理など実践的だが、体系的な教育システムを持たない。

### ④盆栽園の外国人受け入れ

- ・外国人の入門や実習を受け入れている園は、大宮以外にも複数園存在する。  
（春花園〔東京都江戸川区〕、苔聖園〔静岡県静岡市〕、鈴木伸二氏〔長野県小布施町〕の事例等）
- ・観光客等の外国人向け体験講座（半日及び1日程度）の人気が高い。（春花園の事例）

## （2）海外の盆栽愛好家の多様なニーズへの対応

- ・近年では海外の盆栽愛好家の技術レベルも高くなってきているが、管理面についてはまだまだ遅れており、盆栽の管理、育成方法、病気の予防や対処法などの知識や技術が求められている。
- ・また、盆栽の飾り方についても海外ではなかなか学ぶことのできない分野である。日本には「景道」があり、掛軸や添え物の選び方から飾り方まで、その基本的な作法が確立している。あわせて日本庭園や床文化のあり方など、盆栽の背景にある日本文化を教える場が求められている。

### ◆（仮称）盆栽アカデミーの役割

- ①従来は、「壮年男性」の趣味の対象という印象を持たれていた盆栽を、日本を代表する伝統文化の一つに発展させるため、その魅力を広く一般に伝える。
- ②さいたま市で育まれた大宮盆栽の伝統的な技術・文化を普及・継承していく。
- ③盆栽に関する知識と技術を体系的かつ専門的に学べる機関として、国内外を問わず盆栽に関心を持つ人や携わる人のニーズに応え、かつ盆栽愛好家を増やしていく。

## Ⅱ－３ （仮称）盆栽アカデミーの方向性

- ・（仮称）盆栽アカデミーの目指す姿は、上記の目的・役割を踏まえれば、「盆栽に関する知識と技術を体系的に学ぶ盆栽専門の学習機関」とまとめられる。
- ・しかし、盆栽技術・学術の進展を求める声が国内外にあり、その受け皿の存在が求められているものの、現段階では、より具体的なニーズの把握、効率的な運営方法、盆栽をある程度までマスターしている上級者向けのカリキュラムの構築など、検討課題が多いのが現状である。
- ・こうした検討課題については、実際に開講、運営していく中で解決されるべき問題が多い。そのため、まずは大宮盆栽美術館の内部組織としてスタートし、短期間の講座を開催しつつ、受講応募者の動向を確認しながら学習レベル、期間、内容を段階的に高め、盆栽専門の学習機関を目指す方向で進めることが現実的である。

### ◆（仮称）盆栽アカデミーの方向性

- ①開講時は、基礎から中級レベルの技術や教養を中心とした短期間の講座を実施。
  - ②その後、より高い技術レベルに応じたカリキュラムなどを構築し、講座の期間、内容を充実していくことにより、需要を高める。
  - ③最終的には、「盆栽に関する知識と技術を体系的に学ぶ盆栽専門の学習機関」を目指す。
- ※（仮称）盆栽アカデミーの活動、「盆栽文化」の振興に向けて、大宮盆栽美術館と相互に補完しあう関係となるため、大学等との連携を想定しながら当面は大宮盆栽美術館の内部組織とする。

### Ⅲ. (仮称) 盆栽アカデミーの基盤構築

#### Ⅲ-1 (仮称) 盆栽アカデミーの需要予測

##### 1. 日本人主体のアカデミー講座の需要予測

- ・需要予測にあたっては、大宮盆栽美術館の盆栽ワークショップの実績と、大宮盆栽村の観光客数を基に算出した。
- ・「I-2 大宮盆栽をめぐる現状と課題」で示したように、大宮盆栽美術館の平成 26 年度盆栽ワークショップの申込者総数は「845 人」である。
- ・大宮盆栽村の観光客数については、毎年 5 月のゴールデンウィークに開催される「大盆栽まつり」の入り込み客数を参考値とした。全国から 100 近くの盆栽業者が出店する同祭りには、盆栽を購入し育てたいという客層を想定することができる。
- ・また、大宮盆栽美術館が実施した各種アンケートによると、愛好家層は来館者の約 5%、高度な知識・技能の習得に積極的な層は更にその 5%程度と、上位の段階に進むに従って 5%を乗じることで近似値が得られるということが経験則的にわかっている。これをふまえ、「大盆栽まつり」の入り込み客数を母集団として、以下に大宮盆栽村観光客数より導き出される需要予測を算出した。

「大盆栽まつり」入り込み客数 90,000 人	×	愛好家の割合 5%	=	愛好家層の人数 4,500 人
愛好家層の人数 4,500 人	×	受講希望率 5%	=	受講要見込み 225 人
※「大盆栽まつり」の入り込み客数については、埼玉新聞（平成 26 年 5 月 4 日）、東京新聞（平成 27 年 5 月 4 日）及び期間中の大宮盆栽美術館の入館状況から推計した。				

- ・以上の結果、大宮盆栽美術館の平成 26 年度盆栽ワークショップの申込者総数と大宮盆栽村の観光客数を基に導き出された需要見込みは「1,075 人」となった。
- ・しかし、盆栽ワークショップが 1 回限りの開催に対して、(仮称) 盆栽アカデミーは複数回の連続講座を想定しているため、受講者の時間的な制約等を考慮する必要がある。そのため需要予測としては、「1,075 人」の半分程度を想定するのが現実的である。

大宮盆栽美術館 845 人	+	大宮盆栽村 225 人	=	愛好家層の人数 1,075 人
愛好家層の人数 1,070	×	受講希望率 50%	=	年間受講需要見込み 535 人
募集定員	20 人以下の場合、 15 人以下の場合、			26.8 クラスの需要 35.7 クラスの需要

## 2. 外国人主体のアカデミー講座の需要予測

- 外国人向けアカデミー講座の需要予測については、来日・滞在に様々な制約があることから、算出の基礎となる母集団の数を設定することは難しいが、ここでは、条件的に恵まれた外国人であることを想定して、平成26年度の大宮盆栽美術館の外国人来館者数をもとに需要を算出した。

外国人来館者数 3,214人	×	愛好家（コアな層）の割合 5%	=	コアな層の人数 161人
コアな層の人数 161人	×	受講希望率 5%	=	年間受講需要見込み 8人
募集定員		10人以下の場合、 5人以下の場合、		0.8クラスの需要 1.6クラスの需要

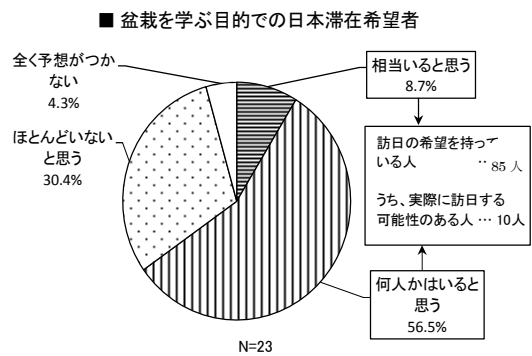
## Ⅲ-2 コース設定

- ・大宮盆栽美術館の来館者数等から算出した需要予測をふまえ、ここでは（仮称）盆栽アカデミーのコースを設定する。
- ・コースの設定に際しては、外国人のニーズをより具体的に把握するため、海外の盆栽に関する学校・協会・業者に向けてアンケートを実施した。
- ・なお、アンケートは平成26年11月6日から平成27年3月17日までの期間実施し、32か国113か所へ国際郵便およびメールにて送付し、23か所より回答を得た（アンケートは巻末参考資料参照。）。

### 1. 海外アンケートの結果（概要）

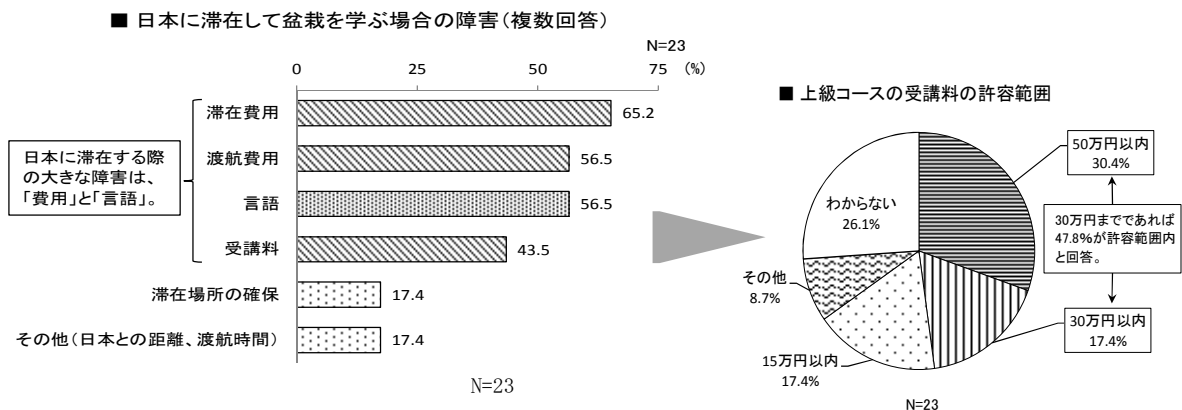
#### （1）盆栽を学ぶ目的での日本滞在の需要

- ・盆栽を学ぶ目的で来日し、日本に滞在を希望する者は「相当いる」が8.7%。
- ・「何人かはいる」が最も多く56.5%。「相当いる」と合わせると、「確実に存在する」が65.2%となる。
- ・「相当いる」、「何人かいる」と回答した団体等の具体的人数を積み上げると、希望者は85名、うち訪日の可能性のある人は10名になった。



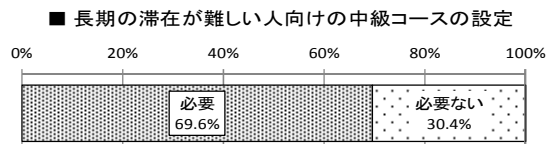
#### （2）日本に滞在して盆栽を学ぶ場合の大きな障害は「費用」と「言語」

- ・日本に滞在して盆栽を学ぶ際に大きな障害となるのは「費用（滞在費・渡航費）」と「言語」である。そのほか「時間」や「宿泊」も障害であることがわかった。
- ・受講料は「50万円以内」が30.4%で最も多いが、30万円までであれば、47.8%が許容範囲となる。



#### （3）長期滞在が難しい人向けの中級コースは必要

- ・長期滞在が難しい人に対する中級コースの設定について聞いたところ、「必要」が



69.6%であった。

## 2. アンケート自由意見に見るコース設定の課題

### (1) 上級者から評価される充実した内容を提示する

- ・興味があるメンバーはいると思うが、費用と仕事を休めないことが大きな障害となる（多数）。
- ・興味を持つ人は技術の高い人で、日本の盆栽園で勉強したいという希望がある。
- ・日本の盆栽技術には興味があるので、学べる内容を具体的に示して欲しい。

### (2) 旅行者向け初・中級コースのマーケット開拓

- ・趣味として盆栽に触れている人も多い。
- ・盆栽村は伝説的でさえあり、すばらしい盆栽園を見たいと思っている。

## 3. 全体会及びPR・連携部会での意見

- ・有識者からなる全体会及びPR・連携部会では、ターゲットについて以下のような議論がなされた。

### (1) 3か月、1か月コースは海外の人にとって対応が難しい

- ・今回の海外アンケート調査では、盆栽を母国でビジネスとしている人以外は、長期間に日本に滞在して盆栽を学ぶことは難しいことが分かった。
- ・海外から来る人に対しては1週間程度のメニューを充実させる。
- ・在日外国人をターゲットにする。長期分散型のメニューを開発する。
- ・学習プログラムとして1週間という期間は重要だと考える。飲食、マッサージ等の資格取得に参考例がある。例えば、王立タイマッサージの研修コースでは、1週間で基本資格の認定を受け、その認定がなければさらに上級のコースには進めない。1週間で基本を教える体制、講師を育成しなければならない。
- ・1年あるいは3か月コースは長期派遣となるため、大学等と連携して補助金を活用することが有効な手段と考えられる。補助金（※）は学校法人でなければならないので、在京または近隣の大学等との連携で活用できる。

※政府開発援助外国人留学生修学援助費補助金（授業料減免学校法人援助・文化省）

※独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）

### (2) ターゲットの細分化

- ・盆栽をビジネスとするか趣味とするかでとらえ方は大きく異なる（期間は1か月が限度）。ターゲットを3つに細分化する
  - ①母国でのビジネス目的であれば一流の指導者による指導が重視される。
  - ②初心者の方は観光がてらになる。
  - ③在日外国人やその家族は短いコースで楽しみながらできるものがよい。
  - ④日本に住んでいて日本語がわかる外国人が一番よい。その他、大使館関係者や来日している研究者、学生など。

### (3) 有望なターゲットは在日外国人

- ・在日外国人がアカデミーの受講生として一番可能性のあるターゲットである。在

日外国人が参加しやすいコース設定を検討する必要がある。

- ・在日外国人は、平日は日本国内で仕事・学業を持っている等のライフスタイルを考慮したカリキュラムの開発が必要となる。土日の講座、平日であれば夜のコースで対応すべき。連続1か月といった方法は難しい。毎月1回程度の連続受講の可能性が高い。
- ・大使館員の家族等を対象に、月に1週間×数ヶ月といった講座を検討してみてもどうか。
- ・留学生（大学生）は金銭的に余裕がないと思われるので、盆栽に興味があっても個人で取り組もうとはしない。農業系や観光学部のある大学と提携して、単位として認めてもらってはどうか。

#### 4. コースの段階的な設定について

##### (1) コース設定に関する2つの課題

- ・海外アンケート結果を見ると、外国から日本への長期滞在は制約条件が多く、多くの希望者は見込みにくい。さらに、（仮称）盆栽アカデミーの内容、実績に不確定部分が多いため、上級者の受講積極性に欠けるという現状である。
- ・結果、現状では外国人の受講ニーズは安定しない（実績が無いため評価されない）。
- ・海外アンケートから浮かび上がる課題としては、以下の通りである。
  - ①ネックとなる費用と時間の負担を上回る便益をどのように提供するか
  - ②カリキュラムの完成度と評価（実績）をどのように高めるか

##### (2) 段階的にコースを設定する

- ・外国人向け講座の設置方策としては、日本人及び日本在住の外国人を対象に初級・中級レベルから段階的なステップを踏み、外国からの中・上級者の受け入れに向けて、中長期的視点を持って完成度を高めることが望ましい。
- ・ターゲットに合わせて、カリキュラム等を構築していくことが現実的である。

##### 【中期的な目標】

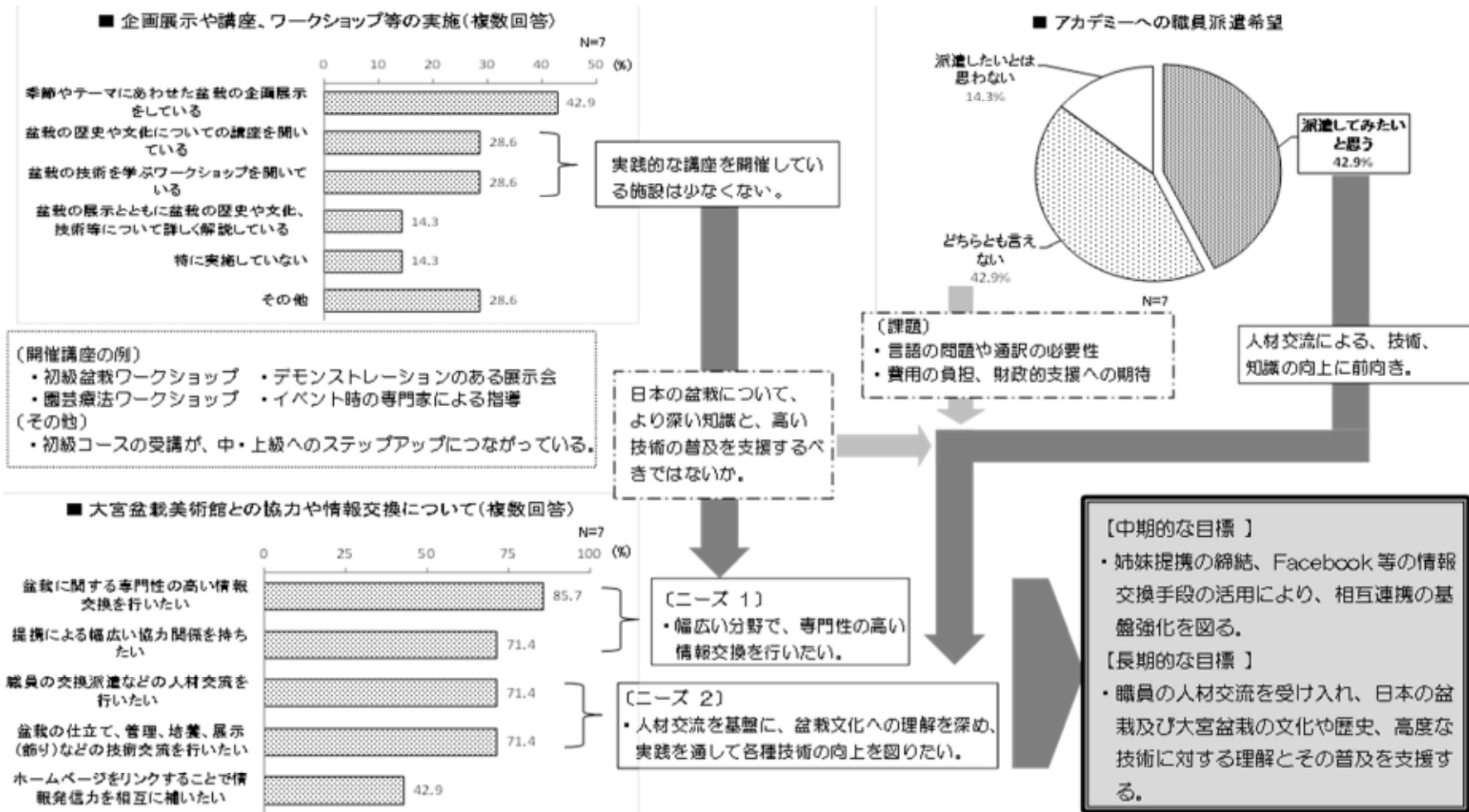
- ・日本人や日本在住の外国人を初動期のターゲットとし、中級レベルを基本として、アカデミーの基礎を固める。

##### 【中・長期的な目標】

- ・実践レベルでの試行を十分に重ね、カリキュラムを上級レベルに発展させ、完成度を高めて、海外からの中・上級者の恒常的な受け入れを図る。

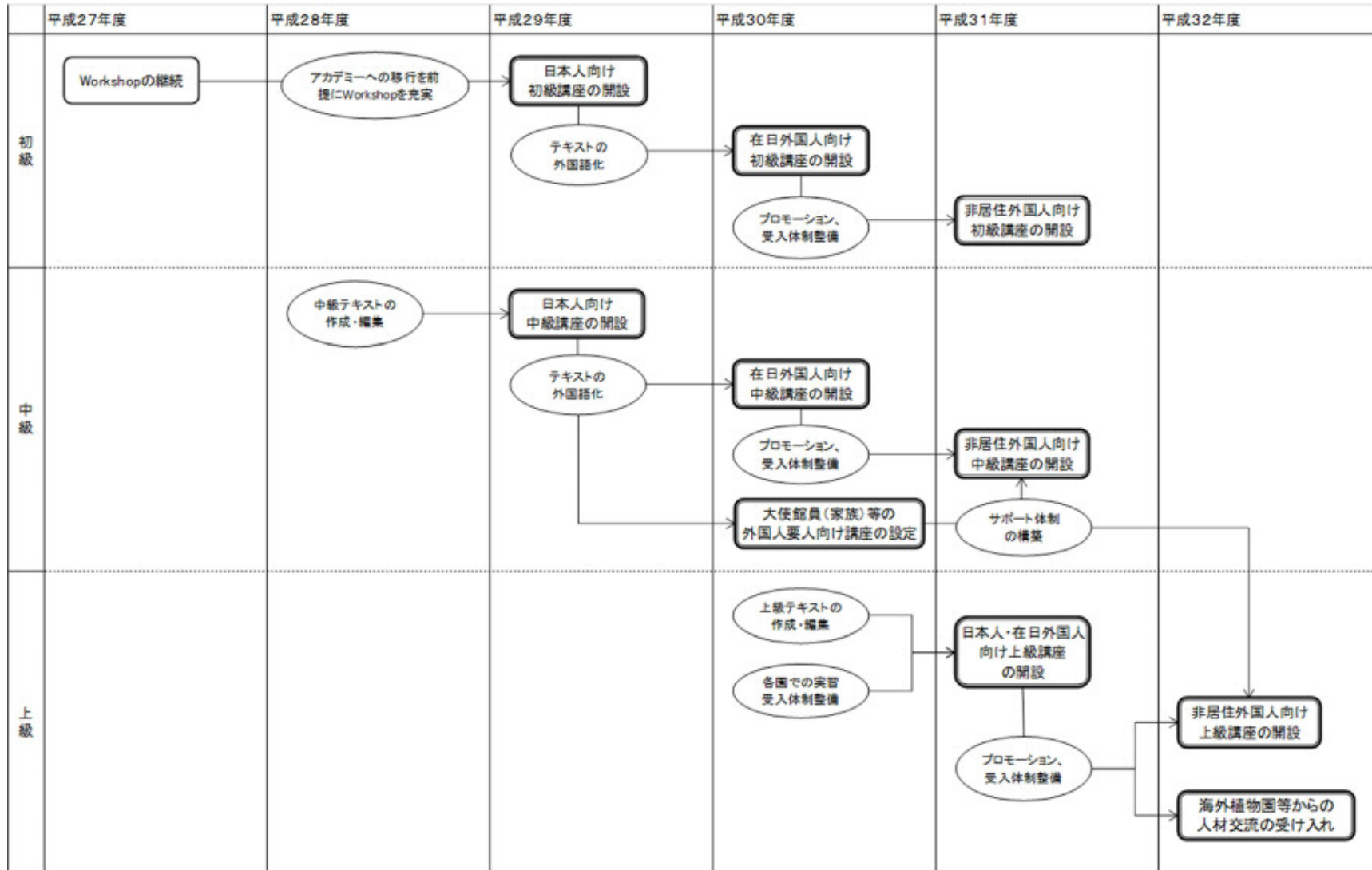
### Ⅲ-3 海外美術館・植物園との連携

・海外美術館・植物園向けアンケートより、大宮盆栽美術館との連携に関するニーズと制約条件を考察し、姉妹提携の締結や各種情報ツールの活用による連携基盤整備（中期的な目標）をもとに、長期的な目標として、人材交流の受け入れ体制の構築を図る。





Ⅲ－４ 段階的な基盤の構築と講座の設定手順



## IV. (仮称) 盆栽アカデミーのカリキュラム基本方針

### IV-1 カリキュラムの考え方

#### 1. 段階的なカリキュラムの充実化

- ・カリキュラムについては、中核的なレベルを中心としたコースを実施しながら、(仮称) 盆栽アカデミーとしての実績を積むことにより、アカデミーの認知及び需要を高め、「盆栽に関する知識と技術を体系的に学ぶ盆栽専門の学習機関」を目指していく。

<p>①短期的目標：基礎的な実技・講義を中心とした講座</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・初級者・中級者を対象とした短期間のコース</li><li>・全6～8回、1回1時間30分～2時間程度</li></ul> <p>②長期的目標：世界最高峰の盆栽専門の学習機関</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・受講者の技術レベルに応じた幅広いカリキュラム（短期・長期、初級・中級・上級）</li><li>・体系的なカリキュラム（著名な盆栽家による技術・管理指導、盆栽周辺分野の研究者による講義、「大宮盆栽」の伝統・文化の継承）</li></ul>
---

#### 2. カリキュラムの方向性

##### (1) 大宮盆栽の伝統・文化を国内外に伝える

- ・(仮称) 盆栽アカデミーの役割でも述べたように、大宮盆栽の特徴は、剪定・針金掛けや培養・管理など、その技術力の高さとともに、各園独自の盆栽をめぐる哲学がある。
- ・(仮称) 盆栽アカデミーでは、こうした大宮盆栽の伝統的な技術・文化を体系づけて、次世代に継承していく必要がある。それは、園主の高齢化等が進む大宮盆栽村の現状を鑑みれば非常に重要な課題でもある。
- ・2020年の東京オリンピック・パラリンピックには、世界各国から東京に多くの人々が訪れると予想される。大宮盆栽の見学を目的に、さいたま市を訪れてもらえるような「ブランド化」への仕組みや、リピーターに新しいコンテンツを提供するといった切り口を検討する必要がある。

##### (2) 海外愛好家のニーズに応える～盆栽の管理・育成方法・飾りの作法

- ・海外アンケートによれば、海外の盆栽関係者が、盆栽アカデミーに期待することは、「盆栽の日常管理、健全な育て方、病気の予防や対処法の知識」と「日本的な飾り方の指導」である。
- ・技術面ではヨーロッパもアジアも水準は高いが、管理面が弱い。各地から集めた盆栽を管理することができないため、用土や病理などの知識や技術を求めている。
- ・飾り方という点では、日本には景道があり、掛軸や添え物の選び方から飾り方ま

で、その基本的な作法が確立している。海外も盆栽を作る技術から、「心で楽しむ」段階に来ており、飾りの作法が求められている。

- ・盆栽の管理・育成方法と飾り方の2つのテーマは、「世界最高峰」を謳う盆栽アカデミーにとって、海外の盆栽関係者に対して有効なカリキュラムとなる。

### (3) 盆栽に関する技術面・文化面を「体系的に」教える

- ・盆栽を作る技術だけではなく、①道具や素材の選定方法、②管理・育成のあり方、③卓や添えの選び方と飾り方、④盆栽の歴史、⑤盆栽の背景にある日本文化の歴史といった、技術から文化面に至るまでを体系的に教えることで、「世界最高峰」の盆栽学習機関としての独自性を追求する。

## 3. カリキュラム作成の手順

- ・基本テーマ及び各レベル別内容の基本的な考え方を設定する（28頁参照）。
- ・必要最低限の単元を揃えた中核となるレベルのカリキュラムを決め、そこから上級、初級方向にカリキュラム構成を派生させる。

### 【中核となるレベルのコース（全8回）案】

	講座・実技／内容	時間
1	【講義】盆栽とは？—盆栽の鑑賞法・種類と樹形	1時間30分
2	【講義】盆栽の歴史	1時間30分
3	【実技】盆栽作り 初級編（小～中品盆栽作り）	2時間
4	【実技】盆栽用具の選び方（苗木、鉢、道具、用土、肥料、苔等）	1時間30分
5	【講義＋実技】盆栽の飾り—鉢合せから席飾りまで	1時間30分
6	【実技】季節の作業（剪定・針金・植え替え等）	2時間
7	【講義＋実技】盆栽の管理・育成方法	1時間30分
8	【実技】盆栽作り 中級編（苗木・鉢の選定から席飾りまで）	2時間

## 4. 上級者向けコース設定の考え方

- ・上級コースについては、上級者のレベルに応じて、以下の2つの受講方法が考えられる。

### (1) 短期集中型 — 技術を軸とする受講方法

〔構成〕

- ・剪定、針金掛けなどの技術的テーマごとに受講する。
- ・1週間連続、あるいは、週末のみで1か月間等。

〔メリット〕

- ・学びたい技術・知識を短期間で集中的に習得することができる。

〔デメリット〕

- ・樹種による違いや季節による留意点等があるため、開催する時期によっては複数の技術を一度に学ぶことができない可能性がある。

## (2) 長期分散型 — 時間を軸とする受講方法

[構成]

- ・季節順に特徴的な作業・技術をテーマとして受講する。
- ・1年間、月1回程度の講義とし、盆栽に特段手を加える必要のない時期に盆栽文化関連の講義を配する。

◇長期分散型の例

- ・月1回 第2日曜日×12か月＝12日間
- ・春・秋・冬の2日間連続×2週×3回＝12日間
- ・春・秋の連続する1週間×2回＝14日間

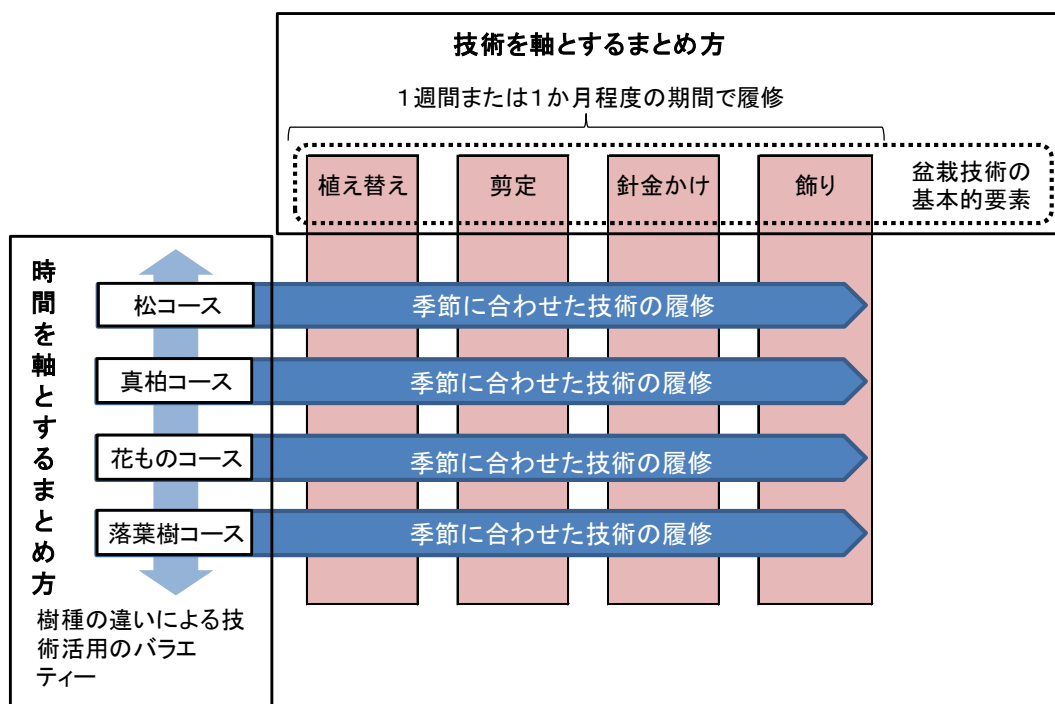
[メリット]

- ・特定の樹種の育成・管理を順を追って体験することができる。
- ・樹種別のコース設定が可能となり、ひとつの素材を一貫して扱うことで、当該樹種のより深い知識、技術が習得できる。
- ・盆栽を育てるというニーズに合致しやすく、実務や自主的に行う趣味活動等と同時並行で進められる。また、普段は素材を自宅で育成・管理することもできる。

[デメリット]

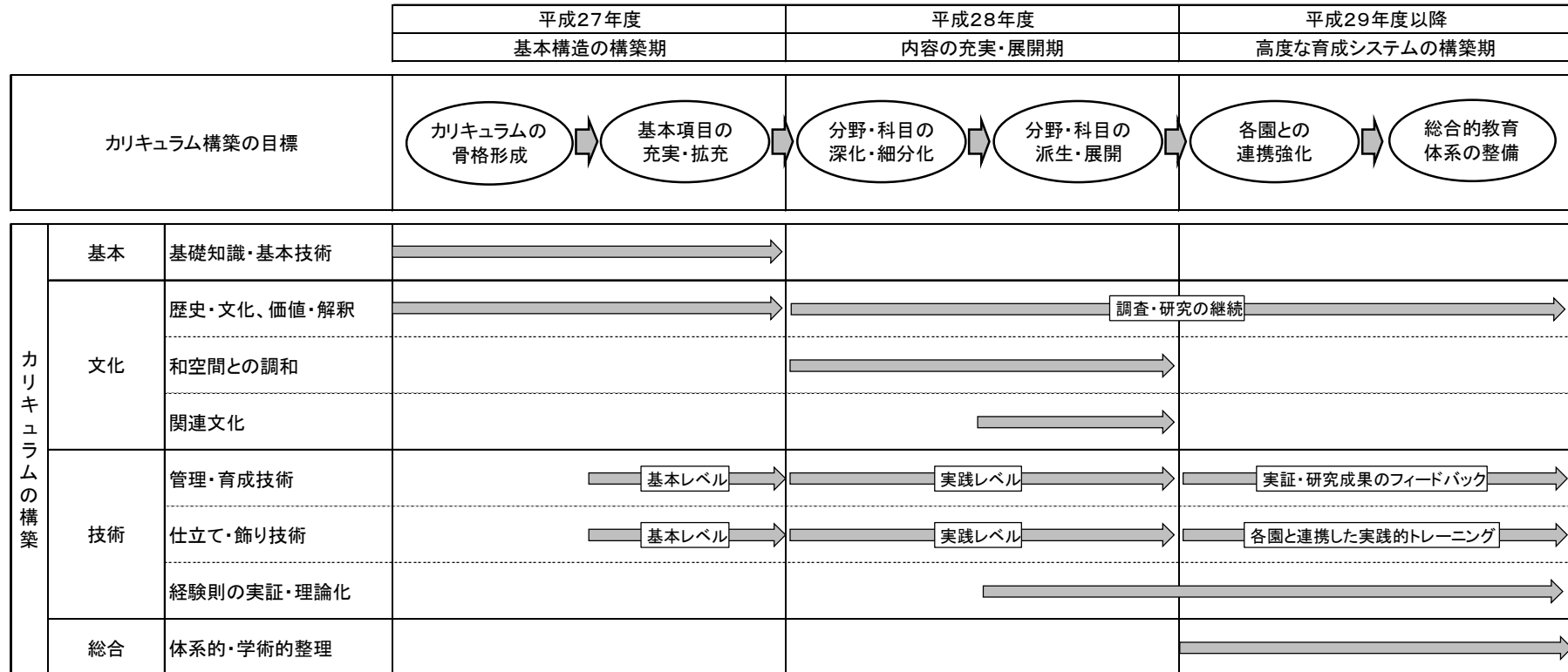
- ・履修に長期間を要する。
- ・遠方からの受講者には負担が重くなる場合がある。

### ◆上級者向けコースのイメージ図



## IV-2 段階的なカリキュラムの充実化

### 1. カリキュラムの構築の手順



2. カリキュラムの充実・展開 ～各テーマの目的と 概要について～

(1) 基本テーマ

基本テーマ	基礎テーマ分類			実践テーマ分類				補完テーマ	
	盆栽とは	盆栽の発祥・歴史	盆栽用具・用土等の知識	盆栽づくり	季節の作業	盆栽の飾り	盆栽の管理・育成	華道・茶道等との関わり	
目的	初・中級者を対象に、盆栽に関する総合的な基礎知識の醸成を図る。	盆栽の歴史的・文化的な背景、美意識の根源を学ぶ。	苗木、鉢、道具、用土、肥料、苔等の選び方や活用法を学ぶ。	盆栽づくりの知識と技能の向上を図る。	季節ごとの作業の知識と技能の向上を図る。	盆栽の飾り方の知識と技能の向上を図る。	レベルに合わせて、盆栽の管理・育成に関する知識の向上を図る。	盆栽への理解を深める知識として、華道、茶道等との関連性を学ぶ。	
レベル別内容	初級	・樹種 ・樹形・分類 ・鑑賞法	・生活文化としての鉢植え ・盆栽の歴史 ・作品観賞(小品)	・苗木・鉢 ・道具の種類 ・用土・肥料 ・苔の貼り方 等	・小品盆栽づくり	・剪定の基本 ・針金掛けの基本 ・植え替えの基本	・鉢合わせ ・飾りの基本	・日常管理の基本	
	中級	・樹種 ・樹形・分類 ・鑑賞法	・生活文化としての鉢植え ・盆栽の歴史 ・作品観賞(中品)	・苗木・鉢 ・道具の種類 ・用土・肥料 ・苔の貼り方 等	・苗木、鉢の選定 ・中品盆栽づくり	・樹種別の作業 (剪定、針金、植え替え 等)	・鉢合わせ ・盆器のいろいろ ・飾りのいろいろ	・日常管理 ・培養・育成 ・病害予防	・華道との関係 ・茶道との関係 ・景道の基礎
	上級		・生活文化としての鉢植え ・盆栽の歴史 ・名品観賞	・日本の盆栽道具のいろいろ ・用土・肥料	② 上級盆栽実務 へ		① 上級実践テーマ へ	③ 病理・疫学・育成研究 へ	・華道の知識 ・茶道の知識 ・景道の知識

(2) 上級実践テーマ

上級者の技能向上のための特別テーマとして、文化的側面を特に意識して、盆栽の飾りに関する各種テーマを設定。

		○上級実践テーマ								
		盆器	飾台・卓・棚等	水石	三点飾り	和室空間	日本庭園	和・洋居住空間	公的空間	現代Art
目的		盆器に関する知識、価値観、観賞力の醸成を図る。	飾り道具の知識や活用方法を学ぶ。	盆栽との関わりの深い、水石の知識、技法を学ぶ。	国風展をはじめとした品評会で求められる飾り方を学ぶ。	茶室、床の間等、伝統的な和室空間での飾り方を学ぶ。	屋外展示技法として、日本庭園との調和を学ぶ。	西洋式住宅、日本の一般住宅における現代的な飾り方を学ぶ。	レセプション会場等からの展示ニーズへの対応を学ぶ。	盆栽の新しい美的表現を創造する。
課題分類	歴史／文化	・種別、製法、産地 ・歴史的、文化的背景	・種別、用途、 ・歴史的、文化的背景	・歴史的、文化的背景	・盆栽文化と品評会の歴史	・和室の基礎知識 ・飾り方の基本	・日本庭園の歴史、文化、種別		・ニーズの現状 ・今後の展望	
	観賞／事例	・歴史的、文化的価値 ・美術品の鑑賞	・飾りの実例	・飾りの実例 ・美術品の鑑賞	・飾りの実例 ・入選作品	・飾りの実例	・日本庭園の観賞 ・盆栽との調和	・飾りの実例 ・生活空間における飾りの検討	・飾りの類例 ・具体的なニーズと飾りの検討	・作品例
	技法／実践	・鉢合わせ ・盆器と樹の魅力を引き出す飾り	・飾りの実践	・飾りの実践 ・盆栽との調和	・飾りの実践	・飾りの実践	・飾りの実践	・飾りの実践	・飾りの実践	・創作

### (3) 上級盆栽実務

上級者の技能向上のための特別テーマとして、高度な技術の習得と、日本の盆栽に対する理解を深めることを目的に、各園における実践・交流を行う中・長期的な機会を設定する。

◎上級盆栽実務	
各園での実務の経験	
目的	各園における高度に実践的なトレーニングや、園主・関係者等との交流を通して、盆栽知識や技術的な向上だけでなく、日本の盆栽と大宮盆栽に対する深い理解の醸成を図る。
歴史・文化的側面のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>各園の成り立ちへの理解</li> <li>盆栽村の歴史と位置づけへの理解</li> <li>日本の盆栽の全体観の醸成</li> </ul>
観賞や交流によるねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>各園の特徴の理解</li> <li>各園の得意分野・技法の理解</li> <li>交流・意見交換等による、日本盆栽の美意識、精神的な背景への理解の醸成</li> </ul>
実習による技術向上のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>育成・管理の実践・習得</li> <li>仕立ての実践・習得</li> <li>飾りの実践・習得</li> </ul>

### (4) 病理・疫学・育成研究

上級者の技能向上のための特別テーマとして、管理・育成に関して各園あるいは各盆栽師が蓄積したノウハウや経験則を科学的アプローチにより実証し、管理・育成技術の向上に資するとともに、体系的な整理と普及に取り組む。

●病理・疫学・育成研究	
経験則の実証と理論化・体系化	
目的	学術的アプローチから、経験則の理論的裏付けを確認し、経験的対処方策と病理学的理論の融合による管理・育成方策の高度化を図る。
病理的アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>盆栽の病気・症状</li> <li>病気の原因</li> <li>治療、対処方策</li> </ul>
予防的アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>予防方策</li> <li>環境要因の整理と対策</li> </ul>
管理的アプローチ	<ul style="list-style-type: none"> <li>盆栽の養生・回復手法の研究</li> <li>養生・回復のための環境づくり・ムロの管理</li> </ul>

### (5) 修了検定

中級・上級では修了検定を課す。

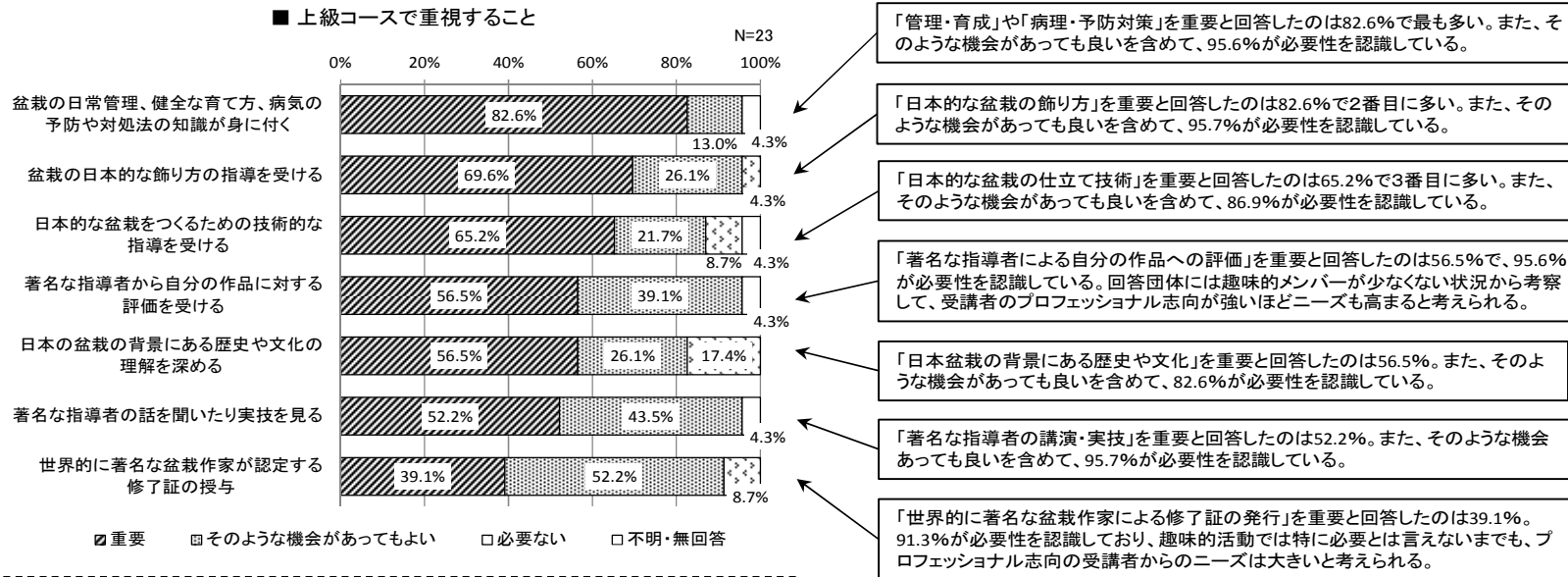
[例] ・中級は、中品程度まで。課題作成期間は3日以内。

・上級は、大きさの限定はしない。課題作成期間は、1週間以内。

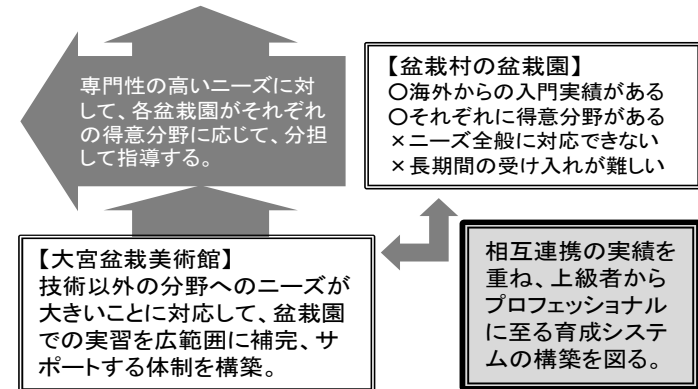


### IV-3 上級コースのカリキュラム構築と盆栽園との連携

- ・プロフェッショナル志向の外国人については、これまでも盆栽村の盆栽園で入門を受け入れた実績がある。しかし、盆栽園の受入能力が低下するなか、アカデミーをプラットフォームとすることで、特定の園への入門にも優るメリットが提供できるシステムを構築することが望ましい。



- 自由意見から抽出された上級コースへのニーズ  
～レベルが高まるに連れて要求水準が高まり、分野・項目也多岐にわたる。～
- ◆ **管理育成・病理についてのニーズ**  
樹種別の季節に応じた管理・育成、樹の健康状態の診断、防虫対策、日本から輸入した樹のケア 等
  - ◆ **日本的な盆栽の仕立て方についてのニーズ**  
それぞれの樹種の仕立て方、質を上げる技術、山取りした材料の査定・管理 等
  - ◆ **日本の盆栽の歴史や日本的な盆栽との接し方についてのニーズ**  
・最近では技術に偏りすぎている。心が安まる盆栽の「大切なところ」が重要だと思う。  
・自然を愛する姿勢、盆栽の歴史、造形の発展、銘木の由来等は、指導者を志す人にとって重要。
  - ◆ **日本的な飾り方についてのニーズ**  
新しい飾り方を創作するにも、元になる日本の飾り方を知らなければできない。  
(正式、床の間、掛け軸、添え飾り、水石、生け花、坪庭、カジュアル、季節、来客対応、雰囲気作り 等)
  - ◆ **日本盆栽の特徴や多様性への理解についてのニーズ**  
各盆栽園への訪問、展示・展覧会のツアー、独自のスタイルを持った盆栽作家の紹介 等



## IV-4 (仮称) 盆栽アカデミーの講師とテキスト

- ・(仮称) 盆栽アカデミーの講師については、以下の2つに分けられる。
  - ①実技に係る講師 (盆栽作り、剪定・針金掛け・飾り方・管理・育成)
  - ②講義に係る講師 (盆栽および盆栽を取り巻く歴史・文化の講義)

### 1. 実技に係る講師について

#### (1) 講師の選定指標

- ・実技に係る講師については、盆栽師としての技術的水準をはかる選考基準を設ける必要がある。盆栽師の技術的水準については、以下の項目がひとつの指標になる。

- ①盆栽歴 (盆栽に携わっている経験年数)
  - ・ただし、盆栽園での修業歴、独立した盆栽園を構えているか等、経験内容を十分に考慮する必要がある。ちなみに、盆栽園での修業期間は5~6年が一般的である。
- ②盆栽に関わる資格等の有無
  - ・日本盆栽協会の「公認講師」、「盆栽インストラクター」等
- ③展示会の入賞・受賞歴の有無
  - ・日本盆栽作風展入賞および内閣総理大臣賞、外務大臣賞の受賞等
  - ・国風展入賞および国風賞の受賞
- ④盆栽に関わる協会・団体からの推薦
  - ・日本盆栽協会、日本盆栽協同組合、日本盆栽作家協会、日本水石協会等
- ⑤その他
  - ・代表作品の有無 (代表作品：本人の培養年数が長く、作風をあらわす盆栽)。
  - ・公共施設他での講師等の経験 (カルチャーセンター、公民館等のイベント・講座)

#### (2) 講師候補について

##### ①上級コース

- ・上級コースの講師としては、上記項目①~③の水準をある程度満たしている者が相応しいと考える。その上で、海外アンケートの結果 (回答の中には希望する講師名を具体的にあげているものがある) を考慮する必要がある。なお植物病理に関しては、大学機関等の専門家を招へいすることも検討する必要がある。

##### ②初・中級コース

- ・初・中級コースの講師としては、上記項目①及び②をふまえて、「④盆栽に関わる協会・団体からの推薦」によって選考するのが相応しいと考える。

### 2. 講義に係る講師について

#### (1) 上級コース

- ・上級コースについては、盆器・水石等の歴史をはじめ、日本庭園・華道・茶道などの日本文化に関する各論的な講義を想定している。そのため、講師は日本文化史・日本美術史を専門とする研究者のほか、各分野に精通した専門家が相応しい。講師の確保は、各分野の学会や協会 (日本庭園学会・日本水石協会等) から推薦・

紹介してもらう方法が妥当である。

## (2) 初級・中級コース

- ・初級・中級コースの講義内容については、盆栽および盆栽を取り巻く歴史・文化の総論的な講義が中心となる。
- ・本コースについては、大宮盆栽美術館の学芸員が同講義内容の経験を有しており、講師候補として挙げられる。
- ・ただし、本コースの実施状況によっては本来的な美術館業務との調整が課題となる。

## 3. テキストについて

### (1) 盆栽園が使用する教本の例

第1章 盆栽について	第2章 盆栽の画解説明	第3章 月別作業
1. 盆栽とは	1. 盆栽の各部の名称	1. 3月の作業
2. 盆栽は自然の観察から	2. 大きさによる分類	2. 4月の作業
3. 盆栽について	3. 盆栽の表と裏	3. 5月の作業
4. 盆栽の作り方	4. スタイル(樹形)のいろいろ	4. 6月の作業
5. いきいきとした盆栽を保つには	5. 盆栽の土	5. 7月の作業
6. 水やりの方法	6. 枝と芽の出方	6. 8月の作業
7. 植え替え	7. 針金掛けのいろいろ	7. 9月の作業
8. 殺菌・殺虫	8. 鉢の形	8. 10月の作業
9. 剪定・整姿・整枝	9. 鉢のいろいろ	9. 11月の作業
10. 芽摘み・葉刈り	10. 卓のいろいろ	10. 12月の作業
11. 針金かけ		11.1月の作業
12. 春のポイント		12.2月の作業
13. 盆栽の表面と添え・鉢写り		
14. 盆栽鉢		
15. 卓		
16. 水石		

### (2) 盆栽園の園主へのヒアリング

日 時：平成27年4月7日 10:00～11:30

場 所：大宮盆栽村藤樹園

出席者：藤樹園 園主 浜野博美

盆栽美術館 学芸員

埼玉りそな 間藤、宮澤

#### ◆短期コースの講座内容について

- ・講師は盆栽協会のインストラクター(全国で約100人、埼玉県内で約20人、東京も含めて約30人)を候補にできる。
- ・盆栽の鑑賞方法や歴史、初級者向けの実



技は、大宮盆栽美術館での実績があることから、美術館のスタッフでも可能であり、むしろ美術館のスタッフの方が、教え方が上手だと思う。

#### ◆（仮称）盆栽アカデミーの理念について

- ・盆栽園側としては、後継者がいないことに対する危機意識が強い。10年後には大宮に盆栽園がなくなるかも知れないという状況を憂慮し、（「盆栽守」として）プロ意識のある人を育てるという基本理念を提言したい。短期コースのプログラムでは、意識や目的が違うのではないか。
- ・蔓青園に外国人の弟子を預かってもらっている。外国人の後継者が育てば、ニューシティや国際的な広がりがあると思う。担い手の育成という意味では、盆栽を深く探求するコースをつくって欲しい。
- ・桜守と呼ばれる人達の活動にヒントを得て、さいたま市では「盆栽守」を育てたい。地方の子息や外国人を「盆栽守」として育成できないか。
- ・盆栽は好きでないとできない。盆栽の声なき声を聞ける人、お金がなくとも意欲のある人を補助できないか。「盆栽守」の育成の場として、見沼田圃での用地確保を提言している。土地の確保は市でなければできない。
- ・有田焼の陶芸家や京都の料理人への入門・修行コースは、人気があっても入れないと聞く。盆栽もそのようにできるとよい。

#### ◆後継者（盆栽守）育成コースへの展開

- ・趣味が興じて職業になるのが一番良い。基本カリキュラムから、後継者育成コースに移れるようにして欲しい。
- ・短期コースの7にもある盆栽の管理・育成が最も難しく、際限がない。特に水やりが一番難しい。やりすぎを理解しなければならないが、実地なら教えられる。
- ・実地で体験しないと覚えられないので、各園での実地のカリキュラムを組むとよい。それには、技術を持った職員を増やすことが必要。
- ・各園めぐりを行うにも、受け入れる園側も大変なので、手厚く振る舞わないと受け入れてもらえないだろう。また、素材の提供や実習の場として、培養場も必要になる。
- ・各園の特色を組み込むのであれば、内容が重複しないよう、各園主と十分に打ち合わせる必要がある。

#### ◆その他

- ・徒弟制度は時代に合わないと思っている。他の文化も含めた美意識の醸成、外国語の習得等、いろいろと学びながら盆栽に取り組むのがよい。
- ・盆栽は植物や自然が好きで好きな人が、好きなものを手元に置きたいという愛情が起源になっていると考える。そこが美意識の原点。

## IV-5 関連分野の研究を行っている教育機関（大学等）との連携

### 1. 大学との連携の目的

- ・現状の教育機関において盆栽を学術的に研究する機関が無い。
- ・しかしながら、園芸・造園・庭園・植物といった分野に幅広い知見を持ち、人材・教材の蓄積が豊富である高等教育機関との連携は不可欠である。
- ・連携におけるメリットとしては、講師の確保やテキストの作成、最新の研究成果の寄与のほか、留学生や若い世代への普及活動の観点も大きいと考える。

#### (1) 長期的連携目的

- ①盆栽研究者の育成、盆栽の学術的価値の向上を目指す。
  - ・盆栽学の提唱を行い、将来的には盆栽学会の創設を念頭に置く。
  - ・現状では盆栽の研究者はいない。
- ②大宮盆栽という貴重な地域資源を後世に伝える。
  - ・現園主たちが持つ知識・経験・ノウハウを後世に伝える。
  - ・あと10年で大宮の盆栽園は半減する可能性を否定できない（園主の高齢化、後継者難等）。
  - ・盆栽の技術・文化の保存・育成、継承に支障をきたす。

#### (2) 短期的連携目的

- ・盆栽アカデミーの開設
- ・カリキュラム・講師の決定、テキストの作成、学習プログラムの開発
- ・受講者の募集と受け入れ方法

### 2. 連携の具体的方策—東京農業大学との連携方策

- ・盆栽の関連領域といえる造園科学科等において専門的教育研究の蓄積を有する東京農業大学と、次のような連携を模索する。

#### (1) 連携の領域

- ①地（知）の拠点大学による地方創成推進事業（COC+）等、文部科学省の事業を活用した連携
- ②社会人・一般対象のカリキュラムとの連携  
例：東京農業大学エクステンションセンター（オープンカレッジ）  
東京農業大学グリーンアカデミー

#### (2) 可能と思われる連携の形態

- ①大学側より講師の派遣・紹介、テキストの提供
- ②大学側より単発の出前講座の開催
- ③その他（盆栽の樹勢診断・病虫害対策に関する共同研究等）

### 《参考》東京農業大学とのヒアリングの概要

#### (1) 実施日時

平成 27 年 2 月 18 日 (水) 15 : 00 ~ 16 : 30

平成 27 年 3 月 12 日 (水) 14 : 00 ~ 16 : 00

**(2) 対応者**

東京農業大学 服部勉教授 (造園科学科 ガーデンデザイン研究室)

東京農業大学 栗野隆博士 (造園科学科 修復造園家・造園史家)

## V (仮称) 盆栽アカデミーに係る施設整備の基本方針

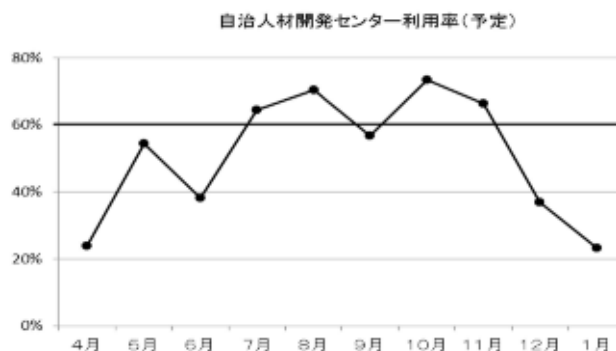
### V-1 大宮盆栽美術館周辺の既存施設の利用

- ・(仮称) 盆栽アカデミーの実習・講義に係る施設については、第一に大宮盆栽美術館の講座室が候補として考えられる。ただし、当該講座室については大宮盆栽美術館の主催事業等で使用する頻度の高いことが懸念される。
- ・したがって、大宮盆栽美術館の講座室の利用を想定するにしても、安定的・継続的にアカデミーを運営していくためには、大宮盆栽美術館以外の施設の確保が不可欠である。
- ・そこで、利便性の観点から大宮盆栽美術館の周辺に位置する「彩の国さいたまづくり広域連合 自治人材開発センター」(以下、自治人材開発センター) 及び「盆栽四季の家」の利用を検討した。
- ・なお、「盆栽四季の家」は床の間が併設されており、日本文化史等の講義のほか、床飾りの実技でも利用することが可能であると考えられる。

#### 1. 既存周辺施設(自治人材開発センター、盆栽四季の家)の利用

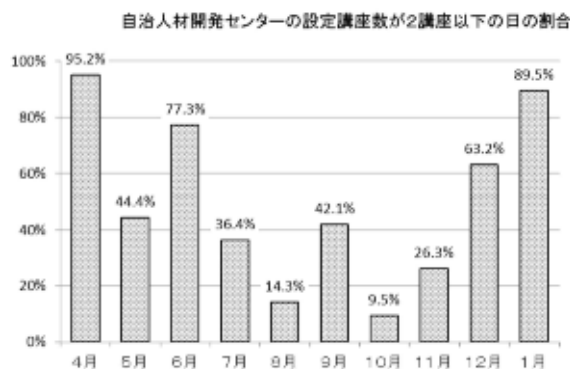
##### (1) 「自治人材開発センター」の利用率

- ・平成 27 年度の予約状況(平成 27 年 4 月現在) から、1 日 5 講座を上限とした研修センター利用率を見ると、7 月、8 月、10 月、11 月の予定利用率は 60% を超え、9 月も 56.8% と、7~11 月の教室の確保がやや難しい。



##### (2) 設定講座数が2講座以下の日の割合

- ・3 講座以上の場合、県研修受講者とアカデミー生徒とが同一フロアで交錯するおそれがあるなど、研修の妨げとならないよう特に配慮が必要がある。
- ・フロアの利用区分を明確に分けるなどの配慮を想定した場合、研修講座数が 2 講座以内であれば比較的容易に対応できると考えられる。
- ・2 講座以内の日は 8 月、10 月が特に少なく、場所の確保が難しい。逆に、4 月、6 月と 12 月以降は比較的確保しやすいと考えられる。



### (3)「盆栽四季の家」の利用率

- ・盆栽四季の家の利用状況を見ると、全般に午後の利用率が高く、午後の時間帯における研修室としての定期的な確保は、市民活動への影響が懸念される。
- ・午前の利用率は午後に比較して低いが、全体の利用率では4月、6月、11月、2月の利用率がやや高く、定期的な確保に懸念がある。
- ・部屋別では、さくらの間の午前の利用率に幾分の余裕があり、1講座程度の許容能力はあるものと考えられる。

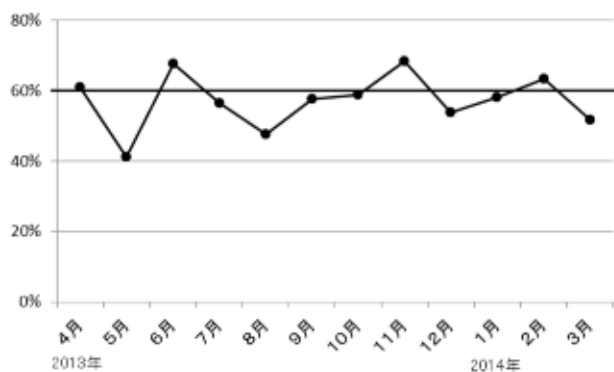
盆栽四季の家の利用状況(午前・午後別)

	利用可能 日数 (土日含む)	午前の利用						午後の利用				
		さくらの間		つげの間		全体の 利用率	さくらの間		つげの間		全体の 利用率	
		利用日数	利用率	利用日数	利用率		利用日数	利用率	利用日数	利用率		
2013年	4月	30	12	40.0%	20	66.7%	53.3%	20	66.7%	21	70.0%	68.3%
	5月	31	9	29.0%	12	38.7%	33.9%	15	48.4%	15	48.4%	48.4%
	6月	30	15	50.0%	20	66.7%	58.3%	21	70.0%	25	83.3%	76.7%
	7月	31	13	41.9%	17	54.8%	48.4%	19	61.3%	21	67.7%	64.5%
	8月	31	10	32.3%	15	48.4%	40.3%	16	51.6%	18	58.1%	54.8%
	9月	30	14	46.7%	16	53.3%	50.0%	18	60.0%	21	70.0%	65.0%
	10月	31	12	38.7%	18	58.1%	48.4%	22	71.0%	21	67.7%	69.4%
	11月	30	16	53.3%	21	70.0%	61.7%	22	73.3%	23	76.7%	75.0%
2014年	12月	27	12	44.4%	15	55.6%	50.0%	15	55.6%	16	59.3%	57.4%
	1月	28	13	46.4%	17	60.7%	53.6%	16	57.1%	19	67.9%	62.5%
	2月	28	17	60.7%	18	64.3%	62.5%	18	64.3%	18	64.3%	64.3%
3月	31	10	32.3%	14	45.2%	38.7%	18	58.1%	22	71.0%	64.5%	
年度計	358	153	42.7%	203	56.7%	49.7%	220	61.5%	240	67.0%	64.2%	

盆栽四季の家の利用状況

	利用可能 枠数 (土日含む)	日中の利用					
		さくらの間		つげの間		全体の 利用率	
		利用枠数	利用率	利用枠数	利用率		
2013年	4月	60	32	53.3%	41	68.3%	60.8%
	5月	62	24	38.7%	27	43.5%	41.1%
	6月	60	36	60.0%	45	75.0%	67.5%
	7月	62	32	51.6%	38	61.3%	56.5%
	8月	62	26	41.9%	33	53.2%	47.6%
	9月	60	32	53.3%	37	61.7%	57.5%
	10月	62	34	54.8%	39	62.9%	58.9%
	11月	60	38	63.3%	44	73.3%	68.3%
2014年	12月	54	27	50.0%	31	57.4%	53.7%
	1月	56	29	51.8%	36	64.3%	58.0%
	2月	56	35	62.5%	36	64.3%	63.4%
3月	62	28	45.2%	36	58.1%	51.6%	
年度計	716	373	52.1%	443	61.9%	57.0%	

盆栽四季の家の利用率





#### (4) 利用率に見る既存周辺施設の利用について

- ・「自治人材開発センター」及び「盆栽四季の家」の利用率から、(仮称)盆栽アカデミーの講座開催を推測する。

- ・4月、5月は「自治人材開発センター」を主体で対応可能と考えられる。
- ・5月は「盆栽四季の家」の利用率が年間を通して最も低い月なので、「盆栽四季の家」主体での対応でも可能である。
- ・7月～11月は「自治人材開発センター」と「盆栽四季の家」を併用することで対応する。
- ・11月は、「自治人材開発センター」と「盆栽四季の家」の併用でも最も厳しいと考えられる。
- ・12月以降は、「自治人材開発センター」主体で対応可能と考えられる。

#### (5) 将来的に講座数が増えると既存施設だけでの対応は困難

- ・現段階では、大宮盆栽美術館とこれら既存の周辺施設を併用しながらの開講となる。
- ・しかし、いずれの施設も利用率が高いため、将来的に(仮称)盆栽アカデミーの需要が増加した際には、別途、講義・実習室を考える必要がある。

## 2 培養場・実習場について

- ・(仮称)盆栽アカデミーの施設としては、講義室、実習室とは別に教材としての盆栽を培養する「培養場」が不可欠である。
- ・また、実習については、屋内の実習室とは別に、屋外で盆栽の管理・育成方法を指導する場所(実習場)が不可欠である。
- ・ここでは、培養場の施設規模の指標となる盆栽鉢数について「(仮称)盆栽アカデミーの需要予測」で示した需要見込み数を基に算出した。

#### (1) 日本人主体のアカデミー講座に係る盆栽鉢数

- ・年間535人の受講者を受け入れた場合、1人当たり1鉢の教材を用意するとして、535鉢の培養が必要になる。
- ・このほか毎年の講座のためのストックや、上級者向けのコースにおける鉢数の増加なども想定する必要がある。

#### (2) 外国人主体のアカデミー講座に係る盆栽鉢数

- ・外国人主体の中級講座の需要予測では、8人程度の需要があると想定した。1人当たり2鉢の教材を用意するとなると、16鉢程度が必要となる。

#### (3) 約500鉢の盆栽を培養する施設が必要

- ・日本人向け(初級・中級)の講座だけでも、約500鉢程度が必要となる。
- ・その他の講座・コース等も考慮する必要があるが、少なくとも(仮称)盆栽アカデミーを安定的・継続的に実施するには、500鉢程度の盆栽を培養するための施設が必要になると考えられる。

## V-2 公共用地利用の基本方向

- ・(仮称) 盆栽アカデミーの事業推進に伴う受講生の受入及び事業実施に対応するため、盆栽町内の公共用地の利用について、それぞれの立地条件、敷地の現況と特性に基づいて、利用の基本的な方向を検討した。
- ・なお、該当する公共用地は(仮称) 文学館用地、(仮称) 盆栽村駐車場用地、盆栽緑地広場の3つである。

### 1. (仮称) 文学館用地

#### (1) 現況

- ・当敷地は、ケヤキ通りに面し、盆栽美術館から約 130m という至近距離にあり、面積は約 1,200 m<sup>2</sup> である。
- ・森於菟(森鷗外の息子。医師・小説家・随筆家)の住居跡という由緒がある場所であるとともに豊かな庭木が繁り、盆栽村の優れた環境・景観の一部をなしている。
- ・また、大宮盆栽美術館と大宮盆栽村との中間に立地し、大宮盆栽村との協力を進める上での効果的な立地である。

#### (2) 土地利用の基本方向

- ・大宮盆栽美術館と一体的に利用できる研修施設・盆栽培養施設に適している。大宮盆栽美術館とともに盆栽村のメインストリートの景観を形成することが出来る。
- ・施設の建築設計、修景計画の中で、森於菟邸跡という歴史・文化的な記憶を継承することも可能である。
- ・敷地内の既存樹木は、冬季の日照を阻害となるものは伐採または適宜移植をすることで、培養所として適切な日照、通風条件を整えることが可能と考えられる。
- ・緑地と共存した施設として、盆栽村の良好な環境、景観の形成に資する。
- ・以上の点から、当敷地は研修施設・盆栽培養施設としての利用が適切である。

### 2. (仮称) 盆栽村駐車場用地

#### (1) 現況

- ・当敷地はかつて盆栽園の一部だったところで、整形の平らな土地であり、面積は 1,500 m<sup>2</sup> と 3 敷地の中で最も広い。
- ・盆栽村の南北軸であるけやき通りと、東西軸ともいうべき漫画会館と盆栽四季の家を結ぶ軸の交点付近にあり、まさに盆栽村の中央に位置すると言える。
- ・周辺には、自動車利用での来訪が比較的多い盆栽園、文化施設等が位置し、現状では来訪者による路上駐車も見られ、大宮盆栽組合から駐車場設置の要望も出されている。

#### (2) 土地利用の基本方向

- ・盆栽村への来訪者のための公的な駐車場を中心として、盆栽村巡回の拠点として整備することが最適と考えられる。

- ・敷地南側は幅 6 m の比較的交通量の少ない道路があり、車の安全な出入りが可能である。
- ・盆栽村巡回の拠点としては、駐車場のみでなく、来訪者のための休憩施設や案内施設を併設することが考えられる。
- ・当面の駐車場需要等に応えるには、面積に余裕がある。そのため、周辺住宅に配慮して、ゆとりのある緑地を備えた施設利用が可能である。

### 3. 盆栽緑地広場

#### (1) 現況

- ・かつては盆栽園の一部で、面積 1,220 m<sup>2</sup> の公開型の緑地広場として整備された。
- ・立地は、産業道路に近接しているが、行き止まり道路の奥にあって分かりにくい。これまで大規模なイベント等においての利用は困難であった。
- ・産業道路側からの夜間照明のため、盆栽の常設や栽培には不適と言われている。
- ・盆栽村は、雑木林や敷地内緑地等、豊かな緑地環境を備えている。しかし、持続性が保障されている公的な緑地は極めて少なく、相続等により緑地環境が改廃されていく恐れがある。そのため、当用地のような公的な緑地は、しっかりと維持していくことが重要である。

#### (2) 土地利用の基本方向

- ・緑地の維持管理のため、適切な利用方法を考えて、それを有効に活用していくことが必要である。
- ・大宮盆栽美術館や研修施設・培養施設での広域的な活動を補う意味で、市民的、地域的な利用に広げていくことが考えられる。コミュニティ活動としての盆栽あるいは環境緑化に関連する活動、例えば、盆栽交換会等のイベント、子供を対象にした自然教育活動などでの利用が考えられる。
- ・したがって、当面は特段の整備は行わず、市民利用の要望に応えつつ、必要最小限の整備を行っていくことが適切であろう。

### 4. 3 公共用地の利用・整備に係る基本的方針

- ・以上、3 公共用地の特性を調査した結果、盆栽の培養・管理については「(仮称)文学館用地」が最も適している。
- ・調査結果を踏まえた各公共用地の利用・整備に係る基本的方針は以下の通りである。

- ①各敷地の中の既存樹木は極力残す
- ②盆栽町の街並みにふさわしい整備（塀：囲い等について）  
→文学館用地、駐車場用地の整備では、道路から見たたすまい（顔づくり）が重要
- ③大宮盆栽美術館を含めた道路交通網・ネットワーク網の検討  
→運転者に静かに走ってもらう道路であることを知らしめる工夫が必要

## V-3 3 公共用地の条件整理

### 1. (仮称) 文学館用地

#### (1) 発展段階的な整備

- ・(仮称) 盆栽アカデミーの開設に係る(仮称) 文学館用地の整備については、アカデミーの需要動向を勘案しながら、開設当初段階から拡充段階へと発展段階的な整備を想定する。

##### ①開設当初段階

- ・培養場とムロ等の簡易な構築物は(仮称) 盆栽アカデミー開設までの完成を目指す。
- ・培養場の整備(ムロ、盆器・用土置場等最小限の付帯設備は配置)。

##### ②拡充段階

- ・実習室、講義室については、受講者の状況、周辺施設の利用率の状況を見極めたうえで対応する(時期は未定)。

#### (2) 具体的な整備

- ・平成25年度基礎調査で示した機能(実習所・培養所・ムロ・研修室等)に沿ったゾーニングを行う(下記参照)。
- ・既存樹木の保存に考慮したゾーニング計画(風致地区)
- ・セキュリティを考慮した塀・門の設置
- ・通風を考慮した培養場のゾーニング計画
- ・塀などの意匠に大宮盆栽村らしさを取り入れる。

#### ■昨年度の基礎調査での必要機能と規模

- |        |  |
|--------|--|
| 開設当初段階 | (1) 培養場：500鉢程度の盆栽が置ける規模が必要。<br>研修用盆栽の培養と大宮盆栽美術館等からの預かり盆栽用の培養場                        |
|        | (2) 実習場：研修生の実技指導の場。10名の研修生が同時に実習が行える広さが必要<br>(1人1坪)。<br>針金や剪定道具などの置き場を含めて実習場の規模は検討する |
|        | (3) ムロ：盆栽を養生・蘇生させる場所。形状はビニールハウスのイメージ   |
| 拡充段階   | (4) 研修室：50～60名程度の講習ができる規模を確保。  |
|        | (5) 研究室(兼講師控室)と資料室・図書室からなる盆栽情報センターの設置  |
|        | (6) 駐車場：2～3台分の駐車スペースを確保する(作業車用として)。  |
|        | (7) その他：管理事務室、共用空間(廊下、階段、トイレ等)、前庭緩衝、倉庫、機械室等  |

### 2. (仮称) 盆栽村駐車場

#### (1) 駐車場の規模

- ・駐車台数は大宮盆栽村全体の駐車場需要から想定すると30台前後が適当と思われる。
- ・市の施設利用者が路上駐車をしている場合もあり、近隣居住者からの指摘もある

ため、適切な整備が必要である。

- ・漫画会館と盆栽緑地広場の利用者は専用の駐車場がなく、盆栽四季の家は文化活動時の利用者と近隣盆栽園の見学者の駐車場としての利用率が高い。

■大宮盆栽村全体での駐車場需要

- ・路上駐車の状態を2週(平成26年12月1日～12月14日)にわたって平日の午前・午後、休日の午前・午後と調査した結果、平日は平均5台以下、日曜は平均8台程度であった。
- ・漫画会館利用者の車利用は把握していないが、大宮盆栽美術館に停めている人を考慮して推計10台以内。
- ・路上駐車の数10台+アカデミー利用10台+漫画会館等その他10台を合わせて、駐車場の必要台数を30台とした。

(2) レイアウトの検討(土地利用・施設部会の検討から)

- ・身障者用のスペースは、1台ではなく3台くらいあった方がよいのではないか。
- ・休憩スペースは約120㎡だが、周辺環境を考慮し、緑化部分を基準より多く設定することが必要であろう。休憩スペースを広げる必要はないか。
- ・駐車スペースだけでなく、利用者にとって有用な機能も配置する(休憩所〔ポケットパーク〕、盆栽販売所、電気自動車用充電設備、レンタサイクルの設置等)。
- ・大型車両は第1種低層なので駐車は難しい。大型は美術館の駐車場で対応。
- ・観光地としてはトイレが必要だが、現状では盆栽四季の家のトイレ使用が現実的である。

(3) 維持管理について(土地利用・施設部会の検討から)

- ・管理費がかかるので、有料駐車場としてよいのではないか。
- ・大宮盆栽美術館と同じ条件で、有料とする。
- ・漫画会館の附置とするのが最も現実的である。

3. 盆栽緑地広場

- ・イベント開催時の臨時展示場を想定する。
- ・現状は、憩いの場として市民に親しまれていることもあり、極力現況を維持して活用する。既存樹木は極力残し、現在設置してある盆栽展示台も極力活用する。

## V-4 3 公共用地の土地利用・整備に係る法規制等

- ・ 3 公共用地の土地利用・整備について、盆栽町内に建築物を新設・整備する際の法規制等について、関係部署へヒアリングを実施し、注意点・留意点を検討した。

### 1. 盆栽町内における建築物の新設・整備について

#### (1) さいたま市が開発を行う際の留意点

- ・ 許可には該当せず、協議の対応となる。
- ・ 建築基準法 48 条但し書きにより、公聴会の開催、建築審査会の同意を得た上で許可を受けることにより用途規制で禁止している用途の建築が可能。
- ・ 景観について、原色を使わない、目立つサインポールは出さないなどの配慮が必要となる。

#### (2) 既存樹木について

- ・ 風致維持の植栽の計算は「緑地と樹木」の 2 つある。
  - ① 緑地：敷地面積当たり 10% 以上確保。
  - ② 樹木：高木（3m 以上）30 m<sup>2</sup>あたり 1 本以上、低木 30 m<sup>2</sup>あたり 3 本以上。
- ・ 既存樹木を残せない場合は同じ敷地内での移植、代替りの樹木を植えることで対応可能である。
- ・ 樹木についても近隣住民・自治会への配慮が必要となる。

#### (3) 風致地区関連以外の注意事項

- ・ 景観条例
- ・ 緑化推進：囲い緑地帯

### 2. 盆栽村 3 公共用地について

#### (1) 文学館用地について

- ① そもそも本来建物などは建てられない場所であることを認識する。建築基準法 48 条の但し書きによる許可となる。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>1) 良好な住環境を害する恐れがない。</li><li>2) 公益上やむを得ない（必ずこの地域に必要なもの）：交番・郵便局・公衆トイレ等。</li></ul> |
|---|

- ・ （仮称）盆栽アカデミーは、上記 2) には当たらないので、1) での許可を目指すことが妥当。
- ・ 建築行政の考え方としては、そもそも建物を建てられない場所になぜ立てる必要があるのかをクリアにすることが大前提である。
- ・ そして、そもそも建てられない建物であるが、良好な住環境を害するものでないことが条件となる。

## ②ムロについて

- ・ムロのイメージは小型のビニールハウス。盆栽の養生の場である。
- ・ムロが「建築物」に該当するかしないかで対応が異なってくる。
- ・「ムロが建築物である」場合：そもそも建てられないものなので、許可が必要となる（公聴会、建築審査会を経る必要がある）。
- ・「ムロは建築物ではない」場合：公聴会、建築審査会は必要なし。
- ・棚、盆器置き場は屋根が無ければ設置は問題ない。

### ◎ムロについての回答（建築行政課、北部都市・公園管理事務所）

ムロについては、園芸用のビニールハウス扱いとなるので、建築物に当たらない。

⇒建築審査会に該当しない。

ただ、世界盆栽大会開催時に資材置き場などに使うと、用途が違ってくるので注意。床面は土間とし、コンクリートなどとしなくて欲しい。

## ③発展段階的な整備について

- ・開設当初段階と拡充段階で用途が異なると、拡充段階での整備が困難となる場合がある。開設当初段階である程度将来的な構想を説明する必要がある。

## ④駐車場の設置について

- ・ハイエース型の車で搬入・搬出をするが、週1回程度の利用なら住環境に害を及ぼすことはない。
- ・車は住環境にとってポイントとなる。駐車場の利用台数だけでなく、駐車場からの人の流れも住環境に影響があるため、その点の配慮が必要。

## ⑤（仮称）盆栽アカデミーの法的位置づけ

- ・（仮称）盆栽アカデミーの法的な位置づけはない。事務所扱いとなる。

## ⑥その他の懸念事項

- ・建築時の騒音
- ・肥料等において
- ・バリアフリー施設に該当すると身体障害者用の駐車場が必要となる。

## （２）駐車場用地について

### ①公衆トイレ、あずまやは公聴会・建築審査会を経ないで建築可能。

- ・地区の利用者のための設備。

### ②盆栽の即売所

- ・テント利用だとイベント期間の一時的な利用に限られる。

例：地区の運動会（1日）

### ③レンタサイクル

- ・屋根なしであれば建築物ではないので設置可能。

### ④電気自動車用電気ステーション

- ・屋根なし、建築物ではない。

### (3) 盆栽緑地広場について

- ・ 盆栽公苑構想に基づき整備した計画当初の使い方に戻し、臨時的、一時的に使用することが望ましい。
- ・ 既存の盆栽台は残して活用した方が良い。
- ・ 盆栽の販売（テントの臨時販売所）等を行う場合は、長期間に渡るものは許可が必要となる。



## V-5 3 公共用地のゾーニング及びイメージパース

### 1. (仮称) 文学館跡地の活用イメージについて

- ・第一種住居専用地域であることから、住宅でない建物の建築には制約があり、建築審査会で十分な説明ができることが前提。
- ・門に架かっている屋根の高さは3mを想定。工事車両（ユニック等）は3mあれば通過できることは確認済み。門の扉は両側に収納する。
- ・生け垣と格子による外囲いは、防犯と周囲から中が見えることの両立に配慮した。
- ・現在、南側の町内会のゴミステーションは、隣接敷地（隠れた場所）に設置する可能性がある。（今回のパースには画かない）
- ・培養場とムロ等の簡易な構築物は、第1期工事として2017年2月（予定）の開講までの完成を目指す。研修施設等の建物は第2期工事とするが、時期は未定。

### 2. 駐車場用地の活用イメージについて

- ・美術館の入館者は増加傾向で、多客期には美術館の駐車場では足りなくなる。
- ・盆栽村来訪者のための公的な駐車場と盆栽村巡回の拠点として整備することが最適。
- ・盆栽村巡回の拠点として、駐車場の他休憩施設や案内施設の併設を検討する。
- ・盆栽村の中心に販売所があった方が見学者の利便性が高い。村を回遊した後に、盆栽を購入して帰ることが期待できる。
- ・トイレの設置については、大宮盆栽協同組合からも要望が出されている。

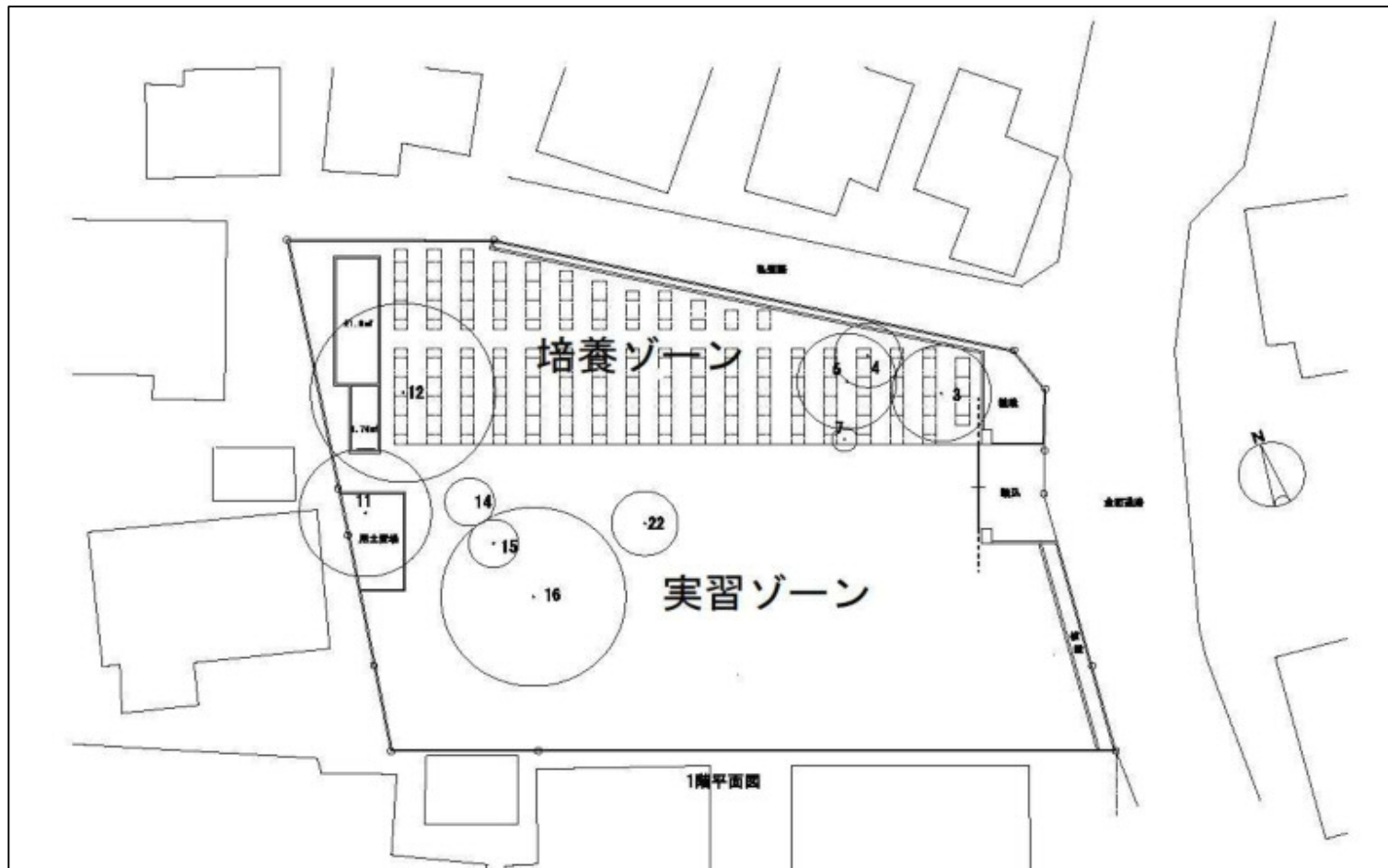
### 3. 緑地広場の活用イメージについて

- ・盆栽展示は、外壁がなく防犯上問題がある。
- ・産業道路につながっていないので、利便性が悪い。ひっそりとした使い方が適する。
- ・常設ではなくイベント使用を想定するが、備品等の保管用倉庫、管理用の駐車場（1～2台）は必要。
- ・盆栽美術館の本格的な展示に対して、緑地広場は市民が手作りの作品を展示する市民活動の場とするのが相応しい。
- ・世界盆栽大会では、飲食の問題が出てくる。弁当を売っても食べる場所がない。食事できて、休める、楽しめる場所を確保する必要がある。
- ・市民の活用をメインとするため、市民中心の事業組織を立ち上げて運営していくことが望ましい。

■ (仮称) 文学館用地イメージパース (開設当初段階)



(仮称) 文学館用地 平面図 (開設当初段階)



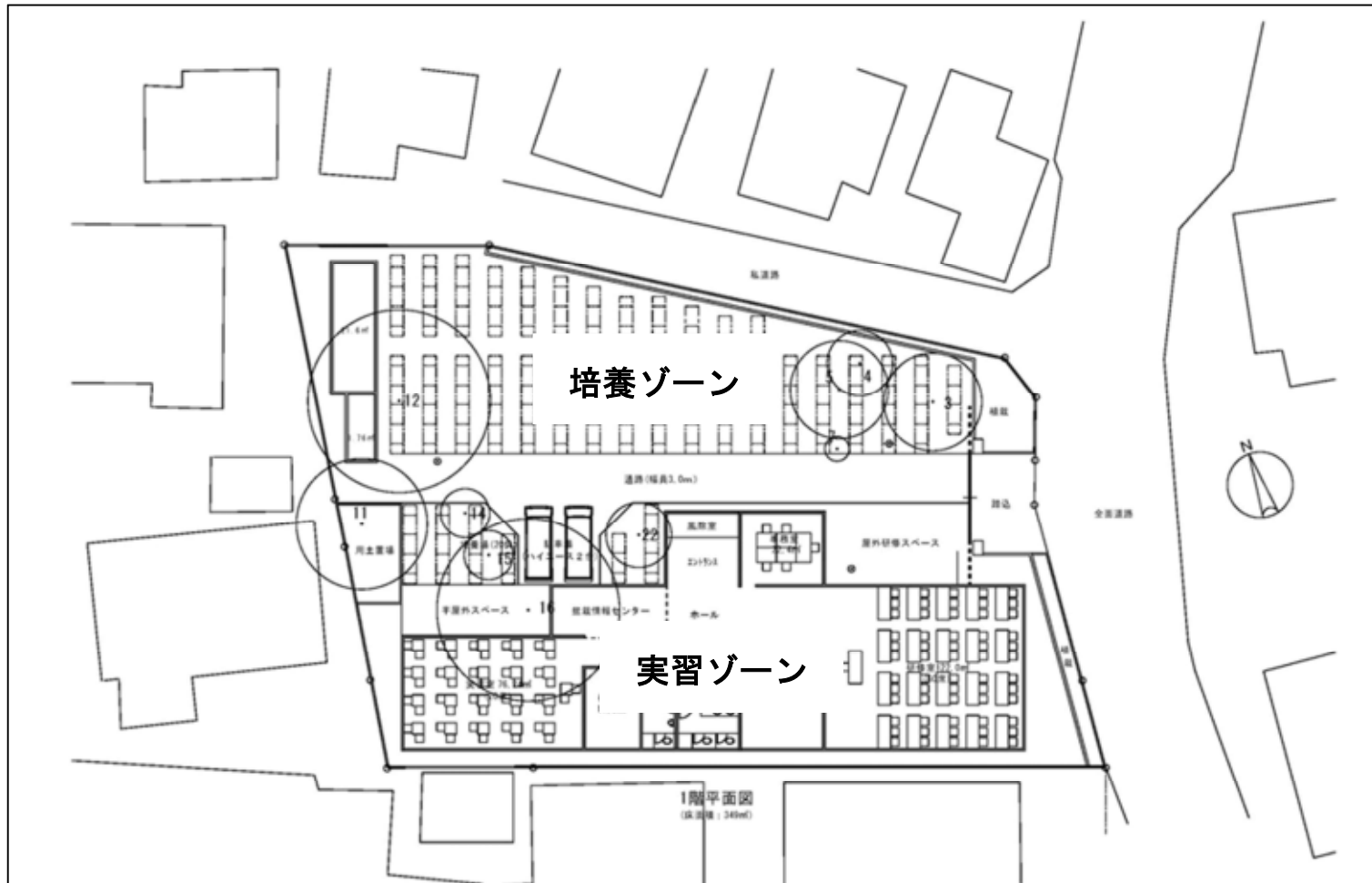


## ■（仮称）文学館用地イメージパース（拡充段階）

- ・ 研修施設等は、受講者の状況、周辺施設の利用率の状況等を見極めたうえで対応する（時期は未定）。



(仮称) 文学館用地 平面図 (拡充段階)



■ (仮称) 駐車場用地の整備イメージ





## ■ 盆栽緑地広場の活用法 1

### 盆栽緑地広場活用計画素案

#### 盆栽緑地広場活用の制約と活用に関する課題

##### 活用時の制約

- ①既存の景観を保ち、無機質な造形物や仮設物設置は行わない。
- ②広場の既存設置物を活用
- ③景観保全のための樹木保護(伐採禁止)
- ④近隣住民に最大限の配慮をする。  
(騒音・悪臭・車輛乗り入れ規制)
- ⑤地域住民の要望優先で考慮
- ⑥ランニングコスト(運用上)の低減



盆栽緑地広場景観

##### 想定される問題と基本設備等

- ①雨天対策  
→地面の泥濘等の対策と雨宿り空間の構築、東屋等
- ②バリアフリー対策  
→道路からの入口の段差、公園内の地面不陸
- ③公衆衛生設備対策  
→トイレや手洗い等給排水設備
- ④催事用備品の倉庫  
→ローコストオペレーション
- ⑤夜間等に配慮した電気設備
- ⑥催事関係者用駐車スペースの確保  
→近隣環境に配慮、路上駐車禁止



東屋イメージ

小建イメージ

東屋・倉庫イメージ

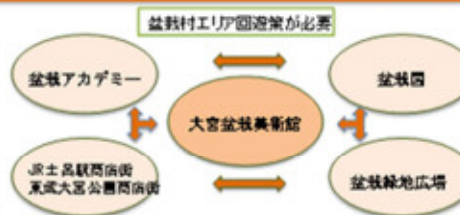


- 盆栽緑地広場は、日常的な地域住民の活用。
- 活用法は、3つの時期に分けて活用法を提示
- ①世界盆栽大会まで、②世界盆栽大会期間中、③世界盆栽大会以降
- 地域団体を中心とした事業運営・事業主幹組織の構築が必要

## ■ 盆栽緑地広場活用の方向性

#### 盆栽緑地広場活用の方向性

- ・「盆栽緑地広場」は地域住民のコミュニティであり、両様な住宅街に立地している。
- ・立地環境と盆栽文化を損なわず、現状の景観を利用したイベント等の活用を行う。
- ・「盆栽緑地広場」の利用優先順位は第一に地域住民と事業者。
- ・インバウンドに対し、盆栽文化発信のサテライト会場（盆栽美術館がメイン）としての役割を持たせ、美術館では実施不可能な催事や活動計画を実施する。
- ・盆栽村地域の様々な施設（商店会、JR、東武鉄道、NPO、旅行代理店等）との連携で面として設置性を持たせる。



#### 盆栽緑地広場活用事業部会と組織

- ・実施主体の選定が必要であり、様々な地域団体を取り込みながら事業部会を発足させる必要がある。
- ・地域の意見等の取り纏め事業主幹となる組織構築と具体的な実施運営に携わる業務（活用用途や計画の管理等）の担い手となる。



## ■ 盆栽緑地広場活用案（直近から世界盆栽大会開催まで）

### 盆栽緑地広場活用案(直近から開催まで)

直近開催案として、経費と環境を鑑みてシンプルかつ文化的な要素で展開。盆栽文化の浸透と裾野拡大のため、美術品的な価値観ではなく「盆栽のある生活」のような身近な文化としてのPRイベントを開催。ボランティアやNPO団体の参画により地域住民の参加意欲も向上します。

- ① 新市・地域の生鮮食料等
- ② 「さいたま暮らし」との連携で地域物産販売会開催
- ③ 「さいたま観光PR」土日祝日のみ設置

- ① ミニ盆栽展示販売・ミニ盆栽制作・ワークショップ
- ② 盆栽関連小物販売・盆栽展示販売
- ③ 盆栽関連商品フリーマーケット
- ④ 新作盆栽発表会

## ■ 盆栽緑地広場活用案（世界盆栽大会開催時期）

### 盆栽緑地広場活用具休案(世界盆栽大会開催時期)

サテライト会場としての機能を持たせ、本会場との連携で自然景観を活かした会場とします。閑静で奥まった立地を活かして日本の侘び寂びの空間を演出し、日本の伝統文化（さいたま市の伝統文化）の情報発信基地として機能させます。野点や和のスイーツで「おもてなし」を演出、盆栽観光案内所としての機能や盆栽関連商品（鉢、書籍、小物等）の販売と創作盆栽の展示を行います。また、観光ボランティアの登用により盆栽文化を分かり易く解説します。

- 「おもてなし」ゾーン
- 「盆栽関連商品展示販売」ゾーン
- 「新作盆栽」展示ゾーン

エントランスイメージ

「おもてなし」ブースイメージ

展示販売ブースイメージ

新作盆栽展示ブースイメージ



## ■ 盆栽緑地広場活用案（直近から世界盆栽大会以降）

盆栽緑地広場推進活用具体案(直近から世界盆栽大会以降)

地域コミュニティの場として直近イベント内容の踏襲と定期開催の「仮称：盆栽ふれあいまつり」等の開催。NPO法人やボランティアスタッフによる地域住民のためのワークショップや盆栽展開催等地域に根ざした「大宮・盆栽文化発信」拠点整備。（常設展示を検討、デジタルサイネージの活用）

### 継続活用案

- ① 鉄道のまち大宮とのコラボで盆栽ジオラマ+Nゲージ展示
- ② 創作盆栽発表会
- ③ 地域自治会主催の郷土料理配布
- ④ 祝日等に盆栽カフェ開催
- ⑤ ミニ盆栽ワークショップ
- ⑥ 盆栽撮影会開催
- ⑦ 盆栽関連食品展示販売会
- ⑧ 盆栽鉢陶芸教室開催



## VI. 今後の課題

### VI-1 管理運営体制

#### 1. 開設当初からの直営方式

- ・(仮称) 盆栽アカデミーの設置・運営方式については、「公設・直営方式」「公設・直営方式(一部民間委託)」、「公設・民営方式」の3方式が考えられる。
- ・(仮称) 盆栽アカデミーの運営母体は、アカデミーが持つべき特性から、民間事業者・NPOの運営よりもさいたま市が直接運営する方が望ましい。
- ・(仮称) 盆栽アカデミーは文化的な要素が強い施設であることなどを考慮すると、開設当初からさいたま市が直営で運営する方式を検討する。
- ・今後は、施設を運営していく際に重要となる事務局機能のあり方、常勤スタッフの人数や必要とされる能力、さらに民間の人材(通訳等)との役割分担などを検討する必要がある。

#### 2. 多様な機関等の協力や連携

##### (1) 隣接する自治人材開発センターと連携

- ・開設当初の(仮称) 盆栽アカデミーの講座は、基本的には周辺施設と連携をして講座室・実習室の確保を目指している。
- ・特に大宮盆栽美術館と隣接する自治人材開発センターとの連携は不可欠である。

##### (2) 関連分野の研究を行っている教育機関(大学等)との連携

- ・(仮称) 盆栽アカデミーでは、上級コースの講師について外部からの非常勤講師の招へいを基本としており、盆栽技術・作法の分野では各盆栽園、盆栽組合、盆栽作家との連携が、また、病理及び文化の面では大学や専門学校との連携が必要となる。
- ・特にアカデミーの運営や受講者の募集等のノウハウについては、大学や専門学校との連携が有効である。そこで、平成27年度からは東京農業大学との連携を視野に入れ、勉強会を開始する予定である。

##### (3) 盆栽園との連携

- ・盆栽技術の指導、上級者向けの対応などについては盆栽園の協力が不可欠である。また、講座の際に使用するテキスト等の作成についても盆栽園と連携をしつつ進めることが重要である。

##### (4) 市民団体・民間との連携

- ・研修補助、通訳など(仮称) 盆栽アカデミー運営を補助するスタッフ・人材の確保するため、市民ボランティアや人材紹介サービス会社との協力が必要となる。

3. 平成27～32年度 盆栽アカデミー事業展開スケジュール

		平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
開設				● 2月、アカデミー特別講座開催 (以下、段階的に各コースを開講)			
管理運営全般	運営方法 (受講システム・受講料等)	● 事業化計画の中で検討					
	カリキュラム・講師	● 事業化計画の中で検討	● 講師の確保				
	実習室・講義室 及び培養場・実習場	● 事業化計画の中で検討	● 講義室・実習室の確保 培養場・実習場の整備		● 講義室・実習室の再検討 (予定)		
	テキストの作成		● 初級・中級コース テキスト作成		● 上級コース テキスト作成		
	広報活動	● 2月、案内チラシ配布((仮称)国際盆栽シンポジウム会場)	● 10月、募集要項の配布 美術館HP・FBで周知開始	● 4月、世界盆栽大会でのPR活動	● 10月、新規開講コース募集 要項の配布	● 10月、新規開講コース募集 要項の配布	● 10月、新規開講コース募集 要項の配布
	他機関との連携	● 東京農業大学との勉強会	● 国内盆栽団体・盆栽園との 連携	● 国外美術館・博物館・植物園 等との連携			
各コースの開講	初級コース			● 4月、日本人向け初級 コース開講	● 4月、在日外国人向け初級 コース開講	● 4月、外国人向け初級コー ス開講	
	中級コース			● 4月、日本人向け中級 コース開講	● 4月、在日外国人向け中級 コース開講	● 4月、外国人向け中級コース 開講	
	上級コース					● 4月、日本人・在日外国人向 け上級コース開講	● 4月、外国人向け上級コース 開講
備考				● 4月、第8回世界盆栽大会開催			● 7月、東京オリンピック開催

## VI-2 在日外国人のニーズの把握

### 1. 有望なターゲットの在日外国人

- ・世界盆栽大会の開催に向けて、外国人を意識している。上級コースは3か月の観光ビザで履修できるようにしたい。
- ・海外アンケートの結果をみると、海外から外国人受講生を呼び込むには、費用や言語など大きな障壁があることが確認された。
- ・日本にはビジネスや留学で来日している外国人（在日外国人）が数多くいる。（仮称）盆栽アカデミーのターゲットとして、日本に住んでいて日本語がわかる外国人が一番可能性のあるターゲットである。
- ・在日本の大使館関係者やその家族などは、日本文化に高い興味を持っており、彼らが参加しやすいコース設定を検討する必要がある。
- ・また、在日外国人は母国では名士であることも多いため、母国の若手盆栽師の日本への研修を支援する側として活動する可能性も高い。

### 2. 在日外国人のニーズの把握

- ・在日外国人は基本的には仕事をしているので、土日の講座、平日であれば夜のコースで対応すべき。連続1か月といった方法は難しい。
- ・長期間連続は難しいと思われる。毎月1回程度の連続受講の可能性が高い。
- ・大使館員の家族、国際結婚している外国人等を対象に、月に1週間×数ヶ月といった講座を検討することも有効と考えられる。
- ・在日外国人に対しては、（仮称）盆栽アカデミーに対するニーズ調査は行っていない。在日外国人は、基本的に日中は日本で仕事をしているので、講座の参加にはある程度の制約があると思われる。在日外国人をターゲットとした講座を開発するためには、まずはニーズを把握する必要がある、

## VI-3 盆栽村全体を見据えた整備構想

### 1. 盆栽村のさいたま市における意味、位置づけ

#### (1) アイデンティティとしての盆栽村

- ・さいたま市は、東京に近く、交通の便が良く、生活に便利な都市との市民意識がある。全国的に有名なものはないが、多様な機能と魅力を持った暮らしやすい都市である。
- ・さいたま市は政令指定都市ではあるが、全国的・国際的な役割を果たすことを目指すよりは、むしろ市民の生活を豊かにすることを期待する声も多く、全国的にも優れた環境水準を備えた、暮らしやすい「生活都市」を目指している。
- ・その中でも、盆栽村と盆栽文化は全国的、国際的にも知られた存在である。そればかりでなく、暮らしや環境の中にとけこんだ存在として、さいたま市に相応しい魅力であり、生活都市・さいたまのシンボルであると言える。
- ・この盆栽文化とそれを担う盆栽村を、さいたま市の重要なアイデンティティとして継承していくことが必要であると考えられる。

#### (2) 盆栽村開村 90 年の盆栽文化・技術の蓄積

- ・関東大震災の後、東京の団子坂周辺の盆栽園が集団で移転し、大宮盆栽村を開村したことは周知の事実である。
- ・盆栽村創設時の入居条件には、①盆栽 10 鉢以上の保有、②門戸の開放、③平屋の建物、④生垣、等が謳われていたという。爾来、この地域には数多くの盆栽園が立地し、日本でも随一の盆栽文化を育んできた。
- ・日本中に盆栽産業の盛んな地域はいくつかあるが、文化としては大宮盆栽村が随一だと言われている。産業と言うより、文化としての盆栽づくりを行ってきたのが、大宮盆栽村の特徴である。
- ・現在、盆栽園の数は減ったが、それぞれ独自の技術を継承している。外国から盆栽の文化・技術を学びに来る研修生も存在している。市民に対する盆栽教室を開催している園もあり、新しいスタイルの盆栽の創出もあって、若い層や女性を含めた市民に徐々に広がっている感がある。
- ・21 世紀になった現在、盆栽は、今後求められている持続可能な社会の象徴ともなる文化・技術である。そしてその拠点が大宮盆栽村だと言える。

#### (3) 盆栽村をめぐる現在の環境とまちづくりの課題

##### ①盆栽村の現在の環境

- ・大宮盆栽村の特徴は、環境の優れた、緑多い低層住宅地のなかに、盆栽園が点在していることにある。もともと、地域全体が盆栽文化を基調として形成された地区であり、近年まで、盆栽村創設当時の思想を引き継いで、独自の魅力を備えた良好な地域環境が形成されてきた。
- ・このような地区は日本全国でも大宮盆栽村だけである。つまり、地域の良好な住環境と景観があってこそその盆栽文化であり、盆栽園そのものだけではなく、地域

全体を、盆栽をテーマとして保全していくことが重要である。

## ②まちづくりの課題

- ア) 盆栽園自身の問題としては、相続により盆栽園が切り売りされていくことである。一般に個人経営の盆栽園は広大な敷地を有しているが、農地のような税制上の優遇措置はなく、相続のたびに分割、売却されていくことが避けられない。盆栽が産業ではなく、文化なるが故の弱さというべきかも知れない。
- イ) 地区環境については、風致地区と第一種住居専用地域という都市計画上の厳しい規制はあるが、盆栽村の本来の環境を保全していくには十分ではない。
- ロ) 狭小な敷地での住宅や共同住宅の立地、敷地内の緑地の減少が進んでいる。
- ハ) 盆栽村の建設においては、当時としては珍しい幅広く整然とした街路網が形成された。それぞれの街路には、ケヤキ、ヤナギ、モミジなどの樹木の名前が付けられている。それを受けて、1980年代にカエデ通りをはじめとする「盆栽四季の道」が整備されたが、盆栽美術館や土呂駅とつながる歩行者ネットワークの整備が課題である。
- ニ) その他交通環境の面では、通過交通や路上駐車が問題である。

## 2. 3公共用地の整備の留意点と盆栽村の将来像

### (1) 3公共用地の整備はこれからの盆栽村の環境、景観の整備を先導する事例

#### ①社会基盤を公的に整備する

- ・大宮盆栽美術館の設立は、盆栽文化の継承等を公的に支援することが目的であったが、大宮盆栽アカデミーの開設も、その延長であると考えられる。つまり、盆栽村の文化と環境を継承していくための、ハード・ソフトの両面にわたる「社会的共通基盤」を公的に整備しようとするものだと考えられる。

#### ②3公共用地は、いずれも盆栽村の貴重な遺産である。

- ・(仮称)大宮文学館用地は、かつて森鷗外の長男、森於菟の住居だったところで、彼も東京近郊の閑静で文化的な環境を求めて住み着いたと思われる。(仮称)盆栽村駐車場用地と盆栽緑地広場は、ともにかつての盆栽園の敷地の一部であり、それぞれ、盆栽村の緑豊かで風格のある街並みの一角を形成していた。
- ・そのため、三公共用地の整備に当たっては、機能的な整備のみでなく、地域の環境、景観の向上に資する方向が必要だと考えられる。例えば、既存の樹木を大事にすること、隣接宅地への配慮を行うとともに、街路に沿った景観の形成を目指す。言い換えれば、これからの盆栽村の環境、景観の整備を先導する事例となるような整備を行うべきである。

### (2) 歩きやすい道路網の整備と通過交通の抑制

- ・盆栽アカデミーと三公共用地の整備に併せて、歩きやすい道路網の整備を進めて

いくことが望まれる。地域の人々の日々の散歩を含め、盆栽園巡りをする来訪者にも、安全で快適、かつ分かりやすい歩行者ネットワークを整備したい。

- ・盆栽四季の道（かえで通り、しで通り、もみじ通り）に加えて、盆栽村の中心を貫き、大宮公園駅と土呂駅からの主要アクセス道路ともなるけやき通り、および漫画会館周辺から駐車場用地を経て盆栽四季の家を結ぶ東西通りの整備が望まれる。
- ・併せて、歩行者の安全のため、自動車の利用は必要最小限に抑えるとともに、地区に関係のない通過交通の抑制が必要である。

### **（3）新たな憲章・まちづくりのルール の 制定**

- ・上記のような整備により、盆栽村は、盆栽文化のメッカに相応しい、落ち着いた風格のある地域の環境・景観の保全と整備を目指していくべきである。
- ・そのための、盆栽村創設当時の申し合せに替わるような、新たな憲章や規範、あるいはまちづくりルールの制定も望まれる。

図表 3 公共用地の所在





## ◆参考資料 1 全体会概要

### 平成 26 年度 第 1 回検討会議全体会

日 時：平成 26 年 12 月 17 日 10:00～12:00

場 所：大宮盆栽美術館 会議室

出席者： 委 員 老川慶喜（立教大学経済学部教授）  
久世晴雅（大宮東口地域コーディネーター）  
中津原努（都市づくりNPOさいたま副理事長）  
村上和夫（立教大学観光学部教授）  
澤田直樹（埼玉県産業労働部観光課主査）

※山中融産業労働部長の代理出席

盆栽美術館 館長、田口副館長、山田管理官、桑原参与、林学芸員

さいたま市 川田主幹

埼玉りそな 間藤、宮澤

#### ◆配布資料

資料 1：（仮称）盆栽アカデミーの方向性について

資料 2：盆栽アカデミー基本構想及び基本計画スケジュール

資料 3：海外アンケート調査中間報告

資料 4：（仮称）盆栽アカデミー検討会議 部会中間報告

資料 5：事業化に向けた（仮称）盆栽アカデミーの検討課題



### 平成 26 年度 第 2 回検討会議全体会

日 時：平成 27 年 3 月 20 日 13:30～15:15

場 所：大宮盆栽美術館 会議室

出席者： 委 員 老川慶喜（立教大学経済学部教授）  
久世晴雅（大宮東口地域コーディネーター）  
小林國雄（日本水石協会理事長）  
中津原努（都市づくりNPOさいたま副理事長）  
浜野博美（日本盆栽協会専務理事・大宮盆栽協同組合代表理事）  
村上和夫（立教大学観光学部教授）  
今成貞昭（埼玉県産業労働部観光課長）※山中融産業労働部長の代理出席

盆栽美術館 館長、山田管理官、田口副館長、桑原参与、渋谷係長、中村技師、  
林学芸員

さいたま市 川田主幹

埼玉りそな 間藤、宮澤

#### ◆配布資料

資料番号 1：平成 26 年度 PR・連携部会 報告

資料番号 2：平成 26 年度 カリキュラム部会 報告

資料番号 3：平成 26 年度 土地利用・施設部会 報告



## ◆参考資料2 海外アンケート結果

### 1. 美術館、植物園

- (1) 発送数 29 (美術館:15、植物園:14)  
(2) 回答数 7 (美術館:3、植物園:4)  
(3) 回答先  
1. Brooklyn Botanic Garden(アメリカ)  
2. U.S. National Arboretum, National Bonsai & Penjing Museum(アメリカ)  
3. Denver Botanic Gardens(アメリカ)  
4. The National Bonsai and Penjing Collection of Australia(オーストラリア)  
5. Bonsai Museum Luis Vallejo (Alcobendas) (スペイン)  
6. The Arnold Arboretum of Harvard University(アメリカ)  
7. PARC FLORAL DE PARIS(フランス)  
(4) 回答率 24.1%

### 2. 学校・協会・業者

- (1) 発送数 113 (協会:83、学校:10、業者:20)  
(2) 回答数 23 (協会:16、学校:6、業者:0)  
(3) 回答先  
1. African Bonsai Association(アフリカ大陸:代表者ザンビア)  
2. Belgian Bonsai Federation(ベルギー)  
3. Bonsai Association Belgium(ベルギー)  
4. Bonsai-Sturm (ドイツ)  
5. collegio nazionale Istruttori del bonsai e del suiseki IBS(イタリア)  
6. Danish Bonsai Society(デンマーク)  
7. Federation of British Bonsai Societies(イギリス)  
8. New England Bonsai Gardens Kai Kou School of Bonsai(アメリカ)  
9. SCUOLA D'ARTE BONSAI(イタリア)  
10. Swedish Bonsai Association(スウェーデン)  
11. TORA international bonsai school(スロベニア)  
12. Tropical Bonsai School (Escuela de Bonsai Tropical)(アメリカ)  
13. Yama Ki Bonsai Society (アメリカ)  
14. Shohin Bonsai Danmark(デンマーク)  
15. The Indo Japanese Association-Bonsai School(インド)  
16. John Hanby Bonsai school(イギリス)  
17. Bonsai Society of Edmonton(カナダ)  
18. THANH TAM BONSAI ART-VOCATIONAL TRAINING SCHOOL(ベトナム)  
19. Bonsai n Stone Academy(マレーシア)  
20. Bonsai Society of Winnipeg(カナダ)  
21. 中国盆景芸術家協会(中国)  
22. 中華松樹盆栽協会(台湾)  
23. Hungarian Bonsai Association(ハンガリー)  
(4) 回答率 20.4%

### 3. 実施期間

・平成26年11月6日 ～ 平成27年3月17日

#### 4. 集計結果

##### (1)美術館・植物園

Q1. 来場者に対して、企画展示や講座、ワークショップなどで盆栽を学ぶ機会を設けていますか。

(複数回答: N値7)

項目	実数	ウェイト(%)
1. 季節やテーマにあわせた盆栽の企画展示をしている。	3	42.9
2. 盆栽の歴史や文化についての講座を開いている。	2	28.6
3. 盆栽の技術を学ぶワークショップを開いている。	2	28.6
4. 盆栽の展示とともに盆栽の歴史や文化、技術等について詳しく解説している。	1	14.3
5. 特に実施していない	1	14.3
6. その他	2	28.6
合計	7	100.0

#### ◆ 盆栽の普及のために取り組んでいることをご記入ください。

・年間を通してワークショップを開催しています。初級盆栽クラスは大人気で、上級クラスも2つ設定しています。初級クラスでは盆栽の歴史も教えます。毎年秋にはもみじの展覧会を開催し、落葉後の展覧会や、生花とさつきの展覧会もあります。5月の盆栽祭りの他、盆栽に関係した展覧会を企画しています。

・Brooklyn Botanic Garden には60年以上にわたる盆栽の普及・教育の経験があります。約400鉢の盆栽を所有し、50鉢の盆栽を常時展示しています。1925年から盆栽を管理・展示しています。アメリカで盆栽を最初に始めたのは本盆栽園です。盆栽の管理・歴史・鑑賞に関する書籍も出版しています。月1回講義を開き、年間通じてワークショップを開催しています。季節に合わせた展示会や、日本文化のイベントも開催しています。地域で盆栽クラブを月1回開くなど、他にも様々な活動をしています。

・NBPCA(オーストラリア国立盆栽・ペンジング(盆景)コレクション)は、オーストラリアの国立コレクションです。年間通じて盆栽とペンジングを展示しています。

・盆栽作家1名の展示会(春)、盆栽作家数人の展示会(秋)、初級者向けワークショップ、園芸療法ワークショップ(がん患者)、Rocky Mountain Bonsai Societyとの展示会(6月)を開催しています。

・2000年と2008年にデモンストレーションのある展示会を行っています。

・2年ごとに国際競技大会を開催しています。その際、専門家に指導に来ていただき、盆栽教室を開いています。

Q2. 盆栽の育成・管理の水準を高めたり、盆栽の飾り方や周辺文化の知識を得るために、(仮称)国際大宮盆栽アカデミーの研修コースに職員を派遣してみたいと思いますか。

(単数回答: N値7)

項目	実数	ウェイト(%)
1. 派遣してみたいと思う。	3	42.9
2. どちらとも言えない。	3	42.9
3. 派遣したいとは思わない。	1	14.3
合計	7	100.0

**Q3. 本アカデミーが企画中の研修について、意見をお聞かせください。  
(盆栽に対する関心、現地の状況等を含む)**

- ・現在、アメリカでは盆栽の人気の高まっています。ワシントンD.C.での盆栽クラブの会員は約300人です。英語で講師が指導するか、通訳を付けています。費用をなるべく安くしています。
- ・アカデミーの考えは素晴らしいと思います。ただし、言葉の障害が問題です。国際クラスは英語で教えることができますか？ 財政的支援はありますか？ デンバー・コロラド地域では、盆栽に対する関心が高いです。
- ・ボストンの人々は日本の文化が大好きです。アーノルド樹木園では盆栽が大人気です。これからも、盆栽を愛する人を増やしていきたいです。真剣に取り組もうとする人は、盆栽アカデミーを目指すでしょう。
- ・計画しているアカデミーはすばらしいアイデアです。私も、私のスタッフも、上級コースのメリットを受けられると思います。
- ・とてもいい事業だと思います。当美術館の経験からすると、資格取得を目指すコースは生徒がより生き生きと学習します。盆栽を愛する人の多くは、盆栽アカデミーの資格に興味を持つと思います。日本の有名盆栽園に3～6年間の入門を希望する人がいます。アカデミーは、何年間も滞在できない人には魅力的だと思います。
- ・北アメリカでは、盆栽コミュニティが大きくなってきています。盆栽クラブ・協会や大会・展示会の数が多くなり、盆栽専門家の数も増えてきました。
- ・初級者が盆栽に興味を持つと、上級・中級者も増加します。

**Q4. 今後、大宮盆栽美術館との協力や情報交換を希望されますか。**

(複数回答: N値7)

項目	実数	ウェイト(%)
1. 提携による幅広い協力関係を持ちたい。	5	71.4
2. 職員の交換派遣などの人材交流を行いたい。	5	71.4
3. 盆栽の仕立て、管理、培養、展示(飾り)などの技術交流を行いたい。	5	71.4
4. 盆栽に関する専門性の高い情報交換を行いたい。	6	85.7
5. ホームページをリンクすることで情報発信力を相互に補いたい。	3	42.9
6. 特に興味はない。	0	0.0
7. その他	0	0.0
合計	7	100.0

## (2)学校・協会・業者

### Q1. 会員や関係者に、日本に滞在して盆栽を学ぶことを希望する人がいると思いますか。

(単数回答: N値23)

項目	実数	ウェイト(%)
1. 相当いると思う。	2	8.7
2. 何人かはいれると思うが少数だと思う。	13	56.5
3. ほとんどいないと思う。	7	30.4
4. 全く予想がつかない。	1	4.3
合計	23	100.0

#### ◆ 日本で盆栽を学ぶことに魅力を感じますか。

- ・興味のあるメンバーはいると思いますが、費用と仕事を休めないことが大きな障害になります。
- ・日本で盆栽を学ぶことはメンバーにとって魅力的ですが、費用が大きな課題になります。
- ・日本に滞在して技術の向上や知識を高めたいとは思いますが、ほとんどのメンバーは趣味として盆栽に触れているので、実際に日本まで行って学ぶ人は少ないでしょう。いるとする、年齢の若いメンバーだと思えます。
- ・日本での滞在は魅力的ですが、デンマークでは盆栽を仕事にしている人はいませんし、それは今後も変わると思いません。デンマークでは趣味で盆栽に触れている人しかいないので、仕事をしている人は日本に行って学ぶことができません。しかし、退職した方の中には興味のある人がいると思えます。
- ・私はSwedish Bonsai Association (スウェーデン盆栽会)の代表です。盆栽アカデミーのコースには興味があります。スウェーデンは日本とは地球の反対側なので、日本に行く旅費と滞在費を負担するのが難しいです。しかし、日本の盆栽園で勉強したいと言う人もいます。盆栽園で勉強する機会を得るための支援があると良いと思えます。
- ・費用と内容を事前に具体的に知らせることが大切です。興味を持つ人は、既に高い技術を持った人です。
- ・今よりもっと盆栽について学びたいと考えている数人のお客さんは、興味を持つと思えます。
- ・時間があれば、日本に行って勉強したいと思っている生徒や仲間は何人かいます。私は静岡県の苔聖園で勉強したことがあります。
- ・プエルトリコに熱帯盆栽学校が1校あります。それと、他に6つの園もあります。日本でもっと技術を学ぶように勧めれば、日本で学ぼうとする生徒はいると思えます。
- ・ヨーロッパで盆栽を学んでいる人たちは、日本を訪れて素晴らしい盆栽園を見たいと思っています。
- ・ほとんどのメンバーは退職した方なので、短期コースに興味があると思えます。
- ・言葉、食べ物、文化、費用がネックとなります。
- ・会員たちは、日本の盆栽の技術に興味があると思えます。特に、水のやり方、鉢合わせ、盆栽用土、繁殖などです。
- ・距離と旅費が大きな問題です。コース自体は良いと思えますし、このような施設を持つことを評価します。
- ・日本で盆栽を学ぶことに非常に興味があります。大宮の盆栽村は伝説的です。

### Q2. 上級コース(3か月と1か月)で滞在費や受講料を支払って日本で盆栽を学ぼうとする学ぶ人は、貴団体の会員や関係者等にどのくらいいると思われますか。

#### ■希望者全体

0人	2
1人	1
2人	3
3人	5
4人	0
5人	5
8人	1
10人	3

#### ■うち訪日する可能性

0人	8
1人	3
2人	3
3人	3
4人	0
5人	1

◆ **本アカデミーの上級コース(3か月・1か月)についてのご意見や感想をお聞かせください。**

- ・ご提案のカリキュラムは印象的ですが、私たちのメンバーにとって、ヨーロッパでも十分学ぶことができるものです。
- ・出来るだけ具体的な概要を送ってください。現状の説明だと、ヨーロッパでもよくあるカリキュラムと変わらないと思います。
- ・技術を次のように宣伝すると良いでしょう。「もみじの春の芽つみ、各種の松の芽つみ、真柏の針金の掛け方、樹種に応じた支流の作り方」
- ・作法を次のように宣伝すると良いでしょう。「丸い鉢と長方形の鉢をどの木に合わせるか、化粧鉢と素焼鉢の使い分け、鉢の特徴を引き出す工夫、盆栽の台の使い方(高さ・形・床の間への使い方)」
- ・病理はヨーロッパの盆栽家にはよく知られていないものです。早めに病気の判断(または毎月のスクリーニング)をすることで、盆栽を助けることができます。最初は盆栽によく使う木(松・もみじ・真柏)について病理の判断力を高め、適切な手段を学ぶ必要があります。現状では適切に判断をせずに用途の広い薬を使ったりするので、弱い木には良くない影響が出たり、薬が効かないこともあります。
- ・しっかりした指導計画の下で、盆栽に関する大切な事項を学ぶことができるのであれば、盆栽の技術を習得しようとする人は非常に興味を持つことでしょう。
- ・1か月と3か月の上級コースは魅力的です。
- ・アメリカで盆栽園の講師として教えています。日本で勉強したことがあり、日本で盆栽を習うことで、文化を知ることにも出来ました。日本に行くことはとても良い経験になります。
- ・スウェーデン盆栽協会は小さいですが、1か月と3か月コースに参加したいという人はいると思います。
- ・とても良いと思います。世界の盆栽学校と連携すると良いでしょう。私の学校が大学とすると、日本に学びに行くのは大学院と同じ。日本で勉強すれば、さらに達成感が高まります。
- ・私たちのメンバーには興味がないと思います。しかし、アメリカの若者の中には、興味を持っている人がいると思います。
- ・1か月や3か月のコースは、盆栽の仕事をしたと思っている人には良いと思います。日本でしか得られない経験があります。
- ・実技と理論のバランスはよくとれています。課程は良いと思います。
- ・一般的に、中国の盆栽園の園主は大金持ちで、盆栽が大好きですが技術は高くありません。盆栽園の仕事は盆栽技術者が行いますが、彼らの月給は少ないです。園主に上級コースを知らせ、盆栽技術者がもっと高い技術を持てば、盆栽園の未来はもっと明るくなるでしょう。園主が費用を提供し、盆栽技術者が日本へ行って上級コースを勉強する可能性は大きいです。
- ・愛好家のための、より短いコースが興味を中心です。
- ・より詳細な説明が欲しいです。

**Q3. 上級コース(3か月・1か月)の希望者像希望者として、貴団体ではどのような人を想定しますか。**

- ・技術水準はさほど高くはないが、趣味として取り組む時間を多く持っている人。 4件
- ・趣味として長年の経験があり、技術や知識の水準が高い人。 4件
- ・何人かのメンバーは専門家です。(商売人、講師)
- ・半分のメンバーは長く趣味として盆栽をやり、ワークショップで壮麗な作品を作ることでもでき、または普段の手入れでコレクションを育てる人もいます。
- ・半分のメンバーは基本的な知識を持ち、技術を高めたいと思っている人もいます。また、盆栽が生き続けられたいというメンバーもいます。
- ・盆栽園で仕事をしている人、専門家として盆栽の指導している人、盆栽コレクターに勤めている人、高級な盆栽を持っている人。
- ・真面目に盆栽をやっている人。
- ・専門家ではなく、趣味として盆栽をやっている人になります。経験の短い人も長い人もいます。
- ・様々な人が来るとは思いますが、ほとんど専門家を目指す人になるとは思います。
- ・仕事で盆栽をやっている人、仕事としてやりたい人、情熱を持って趣味をしている人。
- ・上級コースは、私たちの地域では指導者になりたい人に合うと思います。経験のある熱心な人は、技術を高めたいと思っています。
- ・盆栽園あるいは盆栽を扱う事業を営んでいる人。
- ・有料で盆栽の指導を行っている人。
- ・いろいろなレベルや立場の人がいるが、技術水準は高くはないが趣味として取り組む人の数が一番多い。
- ・盆栽園で働いている技術者(その園主が費用を提供できることが条件)。
- ・盆栽園あるいは盆栽を扱う事業を営んでいる人が多いのではないかと。
- ・技術レベルはそれほど高くなく、趣味として盆栽に時間とお金をかけられる人。

**Q4. 上級コース(3か月・1か月)に参加する場合重視すること。**

**Q4-1. 「著名な指導者の話を聞いたり実技を見ることができる」ことを重視しますか。**

(単数回答: N値23)

項目	実数	ウェイト(%)
1. 重要だと思う。	12	52.2
2. そのような機会があってもよいと思う。	10	43.5
3. 必要ないと思う。	0	0.0
不明	1	4.3
合計	23	100.0

■ 自由意見  
「英語で聞けるでしょうか」

**Q4-2. 「著名な指導者から自分の作品に対する評価をうけることができる」ことを重視しますか。**

(単数回答: N値23)

項目	実数	ウェイト(%)
1. 重要だと思う。	13	56.5
2. そのような機会があってもよいと思う。	9	39.1
3. 必要ないと思う。	0	0.0
その他	1	4.3
合計	23	100.0

■ 自由意見: ヨーロッパから盆栽を持って行くのは不可能

**Q4-3. 「日本的な盆栽をつくるための技術的な指導を受けること」を重視しますか。**

(単数回答: N値23)

項目	実数	ウェイト(%)
1. 重要だと思う。	15	65.2
2. そのような機会があってもよいと思う。	5	21.7
3. 必要ないと思う。	2	8.7
4. 不明	1	4.3
合計	23	100.0

**◆ 日本的な盆栽をつくるための技術について、知りたいことや期待することは何ですか。**

- ・松のそれぞれの種類での枝を追い込み方(Backbuddingを作る)。
- ・松ともみじの支流の作り方。
- ・肥料の技術、タイミング。
- ・現在でも高級と思われる盆栽の質をさらに上げる技術。支流(ramification)を良くする技術。
- ・季節による各種(もみじ・黒松)の管理や上級な針金の掛け方。
- ・山取り材料の査定。それから、気候と関連して園芸技術を理解することが大切です。スウェーデンは北海道と同じような気候なので、北海道であればいいのですが、関東や日本の南部での育て方は適しません。特に松に関する指導が望ましいです。
- ・盆栽のスタイルをすること(針金の掛け方)は大切です。熱帯盆栽を作ってるので、黒松や白松などの管理の勉強をしても使えません。
- ・木の種類に応じた針金の掛け方、鉢の変え方、肥料の与え方。
- ・盆栽のスタイル、その盆栽の姿勢。どの盆栽を育てても、日本の基本的な姿勢を基準として評価されます。
- ・観賞する人が喜ぶ飾り方も大切です。
- ・枝をまげて形づくる技術。
- ・日本の一般的なルールや草物などを伴う飾り付け、アクセントをつける植物の正しい盆栽のルール。

**Q4-4. 「日本の盆栽の背景にある歴史や文化の理解を深める」ことを重視しますか。**

(単数回答: N値23)

項目	実数	ウェイト(%)
1. 重要だと思う。	13	56.5
2. そのような機会があってもよいと思う。	6	26.1
3. 必要ないと思う。	4	17.4
合計	23	100.0

**◆ 日本の盆栽の背景にある歴史や文化について、知りたいことや期待することは何ですか。**

- ・日本では自然を愛し、敬意を持つこと、盆栽の木にも同じように接していることが、学ぶべきところだと思います。また、盆栽の歴史と技術の歴史に興味があります。
- ・スウェーデンでも既に盆栽に関する知識はありますが、文化を学ぶことでさらに向上すると思います。
- ・盆栽を愛する人にとって、盆栽の歴史はとても重要です。特に先生になろうと思ってる人にとって重要です。
- ・盆栽のそれぞれの造形(吹き流し等)の発展と技術について勉強したい。盆栽の歴史の項目も面白いと思います。
- ・基本的な歴史(何時、何処で始まったか)だけで十分だと思います。
- ・現在、日本に残されている名木といわれる盆栽の由来についても知りたい。どのような職人の手によって受け継がれてきたのか等。
- ・伝統のスタイルの確立、過去から成長してきた盆栽の手法について知りたい。

**Q4-5. 「盆栽の日本的な飾り方の指導を受けること」を重視しますか。**

(単数回答: N値23)

項目	実数	ウェイト(%)
1. 重要だと思う。	16	69.6
2. そのような機会があってもよいと思う。	6	26.1
3. 必要ないと思う。	1	4.3
合計	23	100.0

**◆ 盆栽の日本的な飾り方について、知りたいことや期待することは何ですか。**

- ・私たちが展覧会や家で飾る時、おそらく日本の飾り方や作法とは違っているところがあると思います。季節、お客さん、雰囲気に応じた添えや、掛け軸と盆栽の飾り方の相互関係を学ぶべきだと思います。
- ・ヨーロッパでは、添えの大きさが大きすぎて、主の盆栽と合わないことがよくあります。また、添えの種類が合わないこともあります。
- ・美術として、飾り方は盆栽の大切なところ。盆栽の位置、台、鉢の選び方などを学ぶべきです。
- ・盆栽を使った坪庭の作り方。
- ・日本の飾り方を勉強しなければなりません。新しい飾り方を確立したいと思っても、基になる日本での飾り方を知らないといけません。
- ・盆栽は飾り方が大切です。
- ・様々な飾り方(正式、カジュアル、床の間)とその部品(水石、自然の花、人形、掛け軸)のバランスや選び方。
- ・最近は技術に偏りすぎていると思います。盆栽の大切なところ、盆栽を鑑賞して心休まることが忘れられています。昔の盆栽の飾り方や、盆栽が引き立つような飾り方を知りたい。
- ・飾り方に関するルール。



**Q4-6. 「盆栽の日常管理、健全な育て方、病気の予防や対処法の知識が身に付く」ことを重視しますか。**

(単数回答:N値23)

項目	実数	ウェイト(%)
1. 重要だと思う。	19	82.6
2. そのような機会があってもよいと思う。	3	13.0
3. 必要ないと思う。	0	0.0
4.その他	1	4.3
合計	23	100.0

**◆ 盆栽の管理や育て方について、知りたいことや期待することは何ですか。**

- ・ヨーロッパで発生することに限られます。(気候、病気、木の種類)
- ・ヨーロッパでは、この分野の知識が最も不足しています。ベテランの盆栽家にはこういう知識があるのですが、多くの方には伝わっていません。
- ・展覧会や展示会では、地道な普段の管理についてよりも、デモを見たい人の方が多いです。しかし、いい盆栽を育てるには、管理が一番大切です。この20年間で成長した自分の盆栽を見ると、日々の管理の成果が感じられます。その知識を、若い盆栽家に伝えるべきだと思います。水やり、肥料の使い方、種類別の植え替えのタイミング等、さまざまな課題があると思います。出来るだけ具体的に、内容を書くべきだと思います。
- ・これは、一番大切だと思います。
- ・もちろんこれは大切です。見方よりも、木の健康が一番大切です。健康でない木だと、手入れもできません。健康な木の育て方(土、病気を防ぐ、水やり)は重要です。
- ・さまざまな木の種類での、各気候での管理。
- ・盆栽で成功するには、園芸技術が必要です。盆栽が生き続けるようにしないとならない。
- ・いい盆栽の健康を守る。日本から輸入した後のケア。自分の国で、日本の盆栽が生きるようにする技術は必要。
- ・防虫対策をはじめ、盆栽の樹勢診断等について体系的に学びたい。
- ・盆栽を楽しく観賞するために、とても重要なことだと思います。
- ・場所と気候によるところが大きいですが、概要は得ることができる。

**Q4-7. 「世界的に著名な盆栽作家による認定する修了証を持つ」ことを重視しますか。**

(単数回答:N値23)

項目	実数	ウェイト(%)
1. 重要だと思う。	9	39.1
2. そのような機会があってもよいと思う。	12	52.2
3. 必要ないと思う。	2	8.7
合計	23	100.0

**Q4-8. 本アカデミーに期待することがあれば記入してください。(必要と思う具体的なカリキュラム名等)**

- ・ジン・シャリの作り方。
- ・有名な作家に教わるのも大切であり、日々、盆栽の作業ができる環境にいることは、どの生徒にとっても大切です。
- ・山取りした後の管理(生き続けるように)と、山取りしたものの模様の決め方。枝の模様を変える時の技術。
- ・日本では見られない木の種類について(歴史、管理)の指導も大切だと思います。また、日本で使っている木の種類ごとに、別々のコースとするべきです。
- ・盆栽園のツアー、展示会と展覧会は、盆栽の勉強に有効でしょう。独自のスタイルを持った盆栽作家の紹介も望ましい。
- ・日本の盆栽の技術を学ぶ機会が設けられることは、大変喜ばしいことだと思う。

**Q5. 初級者がより高い技術水準を得るため、または長期の滞在が難しい人向けに、中級コースを設定することが必要だと思いますか。**

(単数回答:N値23)

項目	実数	ウェイト
1. 必要だと思う。	16	69.6
2. 必要ないと思う。	7	30.4
合計	23	100.0

**◆ その理由をご記入ください。**

- ・ヨーロッパに滞在している日本人の講師やヨーロッパの講師から習えるでしょう。
- ・国内にも同じようなコースがあるので、日本まで行く人はいないでしょう。
- ・基本、基礎的なスキルを学びに日本まで行かないでしょう。ヨーロッパでも学べると思います。
- ・1カ月の休みは長すぎるので、1週間が良い。1週間の勉強と共に、日本を旅行することが望ましいです。
- ・様々なレベルのコースがあることで、アカデミーの目的を推進することができ、多くの生徒が集まると思います。上級を目指している人にとって、中級コースがあれば良いと思います。
- ・興味のある人のほとんどは仕事をしていますので、長くは休めません。
- ・初めに、生徒の知識を確認する必要があります。長くやっている人だと、高い技術を持っている生徒もいます。その技術と知識を確認する機会を作るべきです。
- ・世界には、良い指導を行っている盆栽学校があります。自慢ではありませんが、例として、私は心や情熱を持っている人には日本での勉強を勧め、日本で盆栽のベースを築いた生徒を指導しています。
- ・日本に長期間行ける人はほとんどいないので、中級コースは必要です。
- ・短期間のコースは、多くの盆栽家にとって魅力があります。何度も勉強に行く人がいると思います。
- ・日本まで行く人は、既にある程度の技術を持ち、その技術を高めるために行くでしょう。そうでなければ、日本に行くためにお金と時間は使わないでしょう。
- ・愛好家は、自分の仕事から長く離れることはできません。
- ・より短い期間の方が、可能性が高いと思います。

**Q6. 上級、中級コースに会員や盆栽愛好家を推薦することはできますか。**

(単数回答:N値23)

項目	実数	ウェイト
1. できると思う。	10	43.5
2. 推薦はできないが、個人申し込みを前提に会員に情報提供することはできると思う。	12	52.2
3. 関与することはできないと思う。	0	0.0
4. わからない。	1	4.3
合計	23	100.0

**◆ 本アカデミーの上級コース(3か月・1か月)への推薦について、ご意見があれば記入してください。**

- ・メンバーの郵送先名簿を使って、案内を送ることは可能です。
- ・初めに講座を受ける人に宣伝してもらいます。
- ・日本に行ける人は限られた人数になりますが、興味はあります。
- ・私は、心と情熱を持っている人だけに日本に行くことを勧めます。日本で学び、日本で盆栽のベースを築いた生徒を増やして指導しています。
- ・コースを経験しないで、他人に勧めるのは難しいです。

**Q7. 会員や盆栽愛好家が訪日して盆栽を学ぶ場合、大きな障害となる問題は何だと思いますか。**

(複数回答:N値23)

項目	実数	ウェイト(%)
1. 渡航費用	13	56.5
2. 滞在費用	15	65.2
3. 滞在場所の確保	4	17.4
4. 言語	13	56.5
5. 食べ物や食事の習慣	0	0.0
6. 受講料	10	43.5
7. その他(日本との距離、渡航時間)	4	17.4
合計	23	100.0

**◆ 上級コース(3か月・1か月)への参加に際しての懸念や、必要と思われる支援策は何ですか。**

- ・特に、宿泊する場所を確保する支援は必要。それから、英語で指導を受けることも重要です。スウェーデンの盆栽家は英語ができますが、日本語はできません。
- ・私の場合は、英語かスペイン語で指導が受けられるのであれば興味はあります。
- ・受講料以外にも、滞在費は最もお金がかかります。近隣に安い宿泊施設を探す支援は必要です。
- ・大きな障害は、ビザ、費用、言語です。
- ・ヨーロッパでやる価値はあるかも知れません。

**Q8. 上級コース(3か月)の受講料はいくら以内なら許容できると思いますか。**

(単数回答:N値23)

項目	実数	ウェイト(%)
1. 100万円以内 (7,000 EUR 10,000 USD)	0	0.0
2. 50万円以内 (3,500 EUR 5,000 USD)	7	30.4
3. 30万円以内 (2,000 EUR 3,000 USD)	4	17.4
4. 15万円以内 (1,000 EUR 1,500 USD)	4	17.4
5. わからない	6	26.1
6. その他	2	8.7
合計	23	100.0

**◆ 上級コースの受講料について意見意見があれば記入してください。**

- ・その人の財力によります。なるべく安い方が良い。盆器や道具を買うお金も考えるべき。
- ・コースの目的にもよります。盆栽園での、作業しながら、見ながらの学習は時間のかかる遅い学び方です。双方向的な教授法や教育課程があれば、もっと払えると思います。
- ・あまりわからないのですが、レベルの高い指導を受ける機会にお金をかけるのは良いことでしょう。ただし、南米と中米は、ヨーロッパや北米より年間収入が低いです。
- ・日本で勉強する以外の考えとして、アカデミーの講師が私の学校に来て指導してくれれば、もっと多くの人に届きます。その場合、多くの生徒を集めることができます。お互いに良い機会になると思います。
- ・ホテルや食べ物も含めて50万円以内。
- ・金額ではなく、何を学べるかが重要。
- ・3か月コースの詳細を知りたい。1日何時間、1週間で何時間の履修が必要となりますか。

**Q9. 団体の会員や盆栽愛好家は、日本の盆栽のことを知るためにどのような手段で情報を得ていますか。**

(複数回答:N値23)

項目	実数	ウェイト(%)
1. インターネットで検索する	19	82.6
2. 盆栽について書かれた書籍から	15	65.2
3. 盆栽専門の雑誌から	17	73.9
4. 盆栽愛好家の団体や団体が発行する刊行物から	15	65.2
5. 日本を紹介するガイドブックから	3	13.0
6. 新聞や雑誌の記事から	4	17.4
7. 貴国内の指導者や盆栽を扱う事業者から	17	73.9
8. 日本から来た指導者や盆栽を扱う事業者から	10	43.5
9. その他(日本での短い滞在、盆栽学校)	3	13.0
合計	23	100.0

**◆ 団体の会員や盆栽愛好家は、日本で盆栽を学ぶ場所をどのようにしてみつけていますか。**

- ・毎月の実演をしています。講師はヨーロッパの盆栽家です。
- ・初級1と2のコースを提供しています。
- ・国際盆栽ジャーナルを団体の1/4のメンバーが読んでいます。
- ・インターネットはよく使いますが、情報の質を把握するのは難しいです。
- ・現代の若者は、インターネットを使って情報を収集します。私の盆栽スクールでは、私の日本での経験をいつも話しています。たまには、日本から講師に来てもらうこともあります。
  
- ・スウェーデンでは、全国組織と4つの地域組織に分かれています。各地域にはベテラン指導者とリーダーがいます。彼らは日本やその他の国に行き、毎年、海外から講師を呼んで実演とワークショップを行っています。各クラブでは毎月会議があり、初級者向けコースを実施しています。国立公園で展示会もします。スウェーデンは地域が広く人は少ないので、実際に参加するのは難しいです。インターネットやDVDを使って指導しています。
  
- ・日本の近代盆栽という雑誌や、日本の本で勉強しています。
- ・インターネット
- ・雑誌「中国盆景賞石」
- ・主に盆栽雑誌からです。

参考資料3 平成25年度「(仮称)国際大宮盆栽アカデミー設置に向けた基礎調査報告書」概要

1. (仮称)国際大宮盆栽アカデミー基礎調査

1. (仮称)国際大宮盆栽アカデミー設置に向けた基礎調査の概要

**(1) 事業の趣旨**  
 ・本調査では、本市の特色である「大宮盆栽」の世界的なステータスをさらに高める新たな組織の設置を検討する。  
 ・盆栽文化の世界的な振興を最終的な目標とし、それに向けた基本的な取り組み方針として以下をあげる。  
 ①盆栽を俯瞰できる人材の育成による新しい文化の創造を目指す。  
 ②盆栽の国際化に向け、諸外国での盆栽文化の普及を担う人材の育成に貢献する。  
 ③盆栽を本市の地域文化として捉え、新たな組織を活用して人材の育成と一般市民への普及を図る。  
 ・上記に基づき、本調査では、大宮盆栽を取り巻く現状の分析、アカデミーのミッションやビジョンの設定や開設に向けた具体的な検討などを行う。

**(2) 事業の概要**  
 ・アカデミー設置の検討組織として、庁内に盆栽文化ワーキングを設置し、調査及び報告内容の検討を行った。  
 ・現在の盆栽事情や大宮盆栽の評価に関する客観的な基準・データが乏しいため、調査は主に各分野に詳しい関係者からのヒアリングを主体として進めた。

2. 大宮盆栽村及び大宮盆栽美術館を取り巻く現状の整理

**【強み・機会】**  
 ・2017年の世界盆栽大会の誘致成功  
 ・海外では大宮盆栽村は盆栽文化・技術の中心というイメージが強い  
 ・伝統と風格ある盆栽園があり、世界で盆栽村の存在感は高い  
 ・盆栽愛好家は世界各国に存在しその数を増やしている  
 ・海外の愛好家は、日本で盆栽を学ぶ希望を持っている  
 ・盆栽を育ててきた日本特有の自然や文化を学べる  
 ・海外の愛好家ニーズはテクニックから心で楽しむ段階に  
 ・日本の住居様式で発展した床飾りに対するニーズが高い  
 ・各盆栽園では質の高い最上級の盆栽を育てている  
 ・大宮で学んだ盆栽作家が国内外に数多く存在している

**【弱み・育感】**  
 ・現在の盆栽村の盆栽園数は最盛期に比べ激減している  
 ・園主の高齢化、後継者難による衰退が懸念される  
 ・日本の女性や若者の盆栽熱は海外に比べて弱い  
 ・大宮の盆栽園は外国人研修生の受け入れ体制ができていない  
 ・海外の技術レベルは向上し、日本と同等のレベルの国もある  
 ・盆栽文化・技術の中心だがきちんと盆栽を教える場がない  
 ・大宮盆栽美術館の培養場は鉢数の割に面積が少なく、風通しにも課題がある。  
 ・大宮盆栽美術館には盆栽を実習で学ぶ場がない  
 ・盆栽を学ぶ体系的なテキストや教科書が存在しない

3. 大宮盆栽の国際化と普及・振興に向けた戦略

【戦略】

- ①現代盆栽における日本独特の個性をブランド化して世界に向けて発信する。
- ②盆栽の文化や技術を体系化してまとめ、普及と伝承の基盤を固める。
- ③盆栽に対する国内外の学びのニーズに応えることで愛好家層をさらに拡大する。
- ④商業主義とは一線を画する文化や学術といった立場から盆栽のステータスアップを図る。

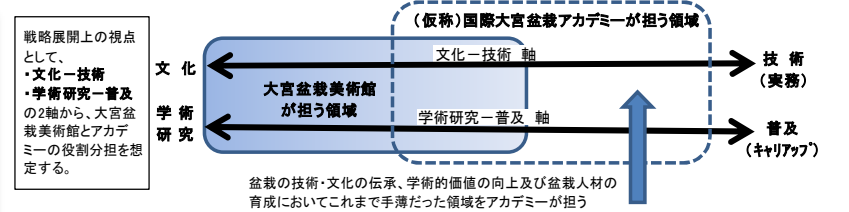
【必要な主機能】

- 日本の盆栽を**文化的**視点で再編集する機能
- 盆栽**技術**の伝承を支援する機能
- キャリアアップを支援する**普及**機能
- 体系的な**学術**振興を促す機能

4. (仮称)国際大宮盆栽アカデミーのミッションとビジョン

- ミッション**  
日本初の盆栽専門の公的な学習・研究機関として、世界中の盆栽愛好家の学びのニーズに応えるとともに、盆栽文化・技術の中心である大宮盆栽を発信源として、盆栽文化の洗練と普及に貢献する。
- ◎**ビジョン1** 盆栽の技術から作法・文化・歴史までを体系的に学べる日本初盆栽専門の公的学習機関として、世界一（世界最高峰）の水準を目指す。
- ◎**ビジョン2** 各盆栽園の持つ技術・ノウハウ・知識を後世に残すための教本づくりに取り組み、盆栽専門家の育成や愛好家の技術向上といった人材育成活動を通して、盆栽人口の裾野拡大を目指す。
- ◎**ビジョン3** 盆栽に関する学術的な研究に取り組みるとともに、若手研究者の盆栽研究を振興し、その成果を発表できる環境を整備することで、盆栽の学術的な地位の向上を目指す。

5. 大宮盆栽美術館と(仮称)国際大宮盆栽アカデミーの役割分担



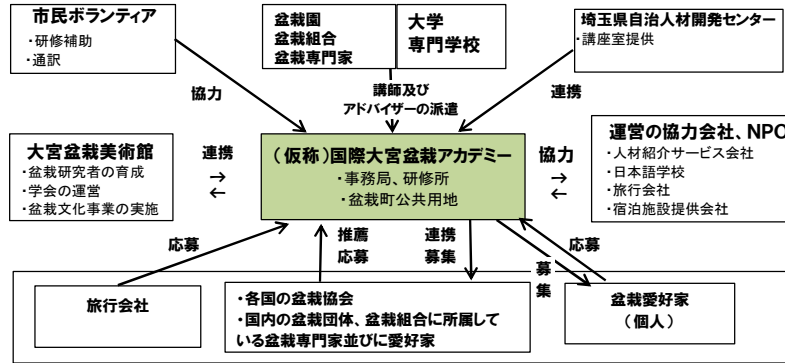
	大宮盆栽美術館	(仮称)大宮盆栽アカデミー
対象領域	・文化的専門領域 ・学術研究領域	・技術的(実務的)専門領域 ・普及(キャリアアップ)領域
主なターゲット層	・世界中から来館する盆栽愛好家 ・国内の盆栽愛好家 ・盆栽文化に興味を持つ国内外の人々	・盆栽の指導者を目指す外国人 ・盆栽の技術習得を目指す人々
盆栽文化の研究と普及	・学芸員を中心とした研究活動の展開 ・研究成果を背景とした企画展の開催 ・一般向け文化・教養講座の開催	・研究実績を体系化した専門講座の開設 ・盆栽文化の普及に資する人材の育成 ・若手研究者の研究発表の場の提供
盆栽技術の体系化と普及	・技術・ノウハウの記録化・体系化 ・病理等の周辺分野との学術的連携 ・展示活動等による盆栽知識の普及	・盆栽技術を体系化した専門講座の開設 ・盆栽技術の普及に資する人材の育成
盆栽実技への取り組み方針	・学校教育(小学校の課題学習等)の一環としての取り組み	・技術向上を目的としたワークショップの開催 ・研究生(上級者)に対する実習機会の提供 ・一般向け体験講座の開催

1【参考】さいたま市がアカデミーを設置する意義

- ①盆栽文化の振興に向けて、多面的なアプローチを総合的に推進する。(総合性)
- ②盆栽文化の普及や学術的振興といった公益性の高い役割を担う。(公益性)
- ③対外的に十分な信頼を得ることができる組織である。(信頼性)
- ④組織運営上の諸問題によって事業の継続性が安易に損なわれない。(継続性)
- ⑤客観的で偏らない立場から盆栽文化を総合的に捉え、普及に取り組む。(普遍性)
- ⑥大宮盆栽美術館と連携し、一体的な事業運営を行う。(一体性)
- ⑦盆栽園や事業者団体が取り組まない分野を主な活動領域とする。(非事業性)
- ⑧大宮盆栽村の国際化や市内園芸産業の振興につながる。(波及性)

## II. (仮称) 国際大宮盆栽アカデミーの運営体制

### 1. (仮称) 国際大宮盆栽アカデミー運営に係る他機関との連携



### 3. 平成 26 年度の事業推進体制

#### ①(仮称) 国際大宮盆栽アカデミー基本計画

全体会 (アカデミー全体運営方法、組織等全体調整)		
分科会		
カリキュラム部会	アカデミー施設部会	PR部会
カリキュラムの決定 講師の専任 テキストの作成	用地の決定と敷地整備方針 施設内容の決定(規模、種類、管理) 室外施設の決定(研修、培養場)	研修生の募集 民間事業者及び国内外 関連団体との連携 アカデミーのPR

#### ②盆栽村周辺整備の検討

市内
プロジェクトチーム(PT)
ワーキンググループ(WG)
(検討事項: 盆栽村周辺整備)
市有地の活用と整備方針 盆栽四季の家の活用(茶道・華道等日本文化研修)

## 2. カリキュラム区分

- 盆栽技術
  - 仕立技術
  - 培養管理
  - 繁殖技術
- 作法
  - 盆栽理念
  - 水石(盆栽とは車の両輪)
  - 景道(飾り方としての空間芸術)
- 病理
  - 植物病理の基本
  - 病理実務の病理学的裏付け
- 文化
  - 周辺文化から盆栽を説明(日本庭園、庭園史を含む広い視点)
  - 園芸文化との関わり

#### (仮称) 国際大宮盆栽アカデミー研修内容(案)

コース別	期間	研修内容	募集人員	講師	備考
研究生コース	長期 3ヶ月	・技術 ・作法 ・病理 ・文化 ・庭園、茶道、華道ほか	2~10人	常勤講師、非常勤講師、さいたま市職員(学芸員、盆栽技師)	3日間の実技試験(大きい盆栽)あり、修了証
研究生コース	長期 1か月	・技術 ・作法 ・病理 ・文化 ・庭園、茶道、華道ほか	2~10人	同上	1日間の実技試験(小盆栽)あり、修了証
研修生コース	中期 1週間	・技術 ・作法、病理、文化(基礎)	5~10人	同上	ワークショップの参加、修了証
体験コース	短期 2~3日	・技術、病理、文化、作法(基礎)	10~30人	同上	基本のみ
体験コース	短期 半日コース	・技術、文化(基礎)	最大 50人程度	常勤講師、さいたま市職員(学芸員、盆栽技師)、ボランティア	旅行会社とタイアップ
	ワークショップへの支援	・技術、文化(基礎)	同上	同上	日本人参加可能

※常勤講師は盆栽技術を中心とした職員。非常勤講師は大学の教員など他の職務を持つ者が対象となる。

#### ■(仮称) 国際盆栽アカデミー開校スケジュール(案)

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
施設整備				住居説明会(公明会)、建築審査会 計画通知・開校行進 土壌調査(土を取出す場合) 電波障害・家屋補償(事前調査)	電波障害・家屋補償(事後調査)
カリキュラム		基本構想・計画 施設場所決定	基本・実施設計	建設工事	竣工
講師関係		基礎調査 各盆栽園の協力、講師陣検討	カリキュラム検討選定 教本の作成準備 教本の作成	講師の決定と講義内容検討	開設準備
事務組織		運営方式決定	事務局スタッフの検討	組織設立 (募集要項、運営規則、PR、乗客、予算規模など開設準備)	フル開設
その他	WG: 設置場所の検討	PT: 周辺整備(盆栽駐車場、サイン改修)	周辺整備積算・予算要求 設計図書作成(依頼工事)	盆栽村駐車場、誘導サイン改修	開設 世界盆栽大会
			学識者など全体会及び分科会の設置、並びに推進(市内はPTの設置)	設置条例(盆栽村駐車場、盆栽アカデミー)	